

ブラジル共和国ワクチン製造 プロジェクト事前調査報告書

JICA LIBRARY

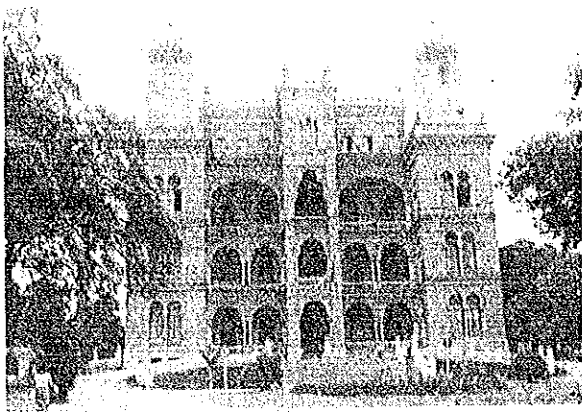


1025852[3]

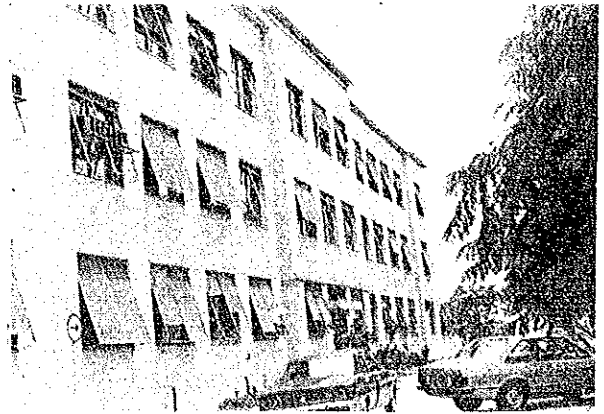
昭和55年5月

国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 19	703
登録No. 00945	92
	MCS



財団法人 オズワルド・クルスの本部



生物製剤研究所 (PAVILHÃO ROCKFELLER)



財団法人 オズワルド・クルスでの協議



財団法人 オズワルド・クルスでの協議



黄熱ワクチン製造所視察



サンパウロのブタンタン研究所視察

は じ め に

昭和55年1月11日から1月29日までの約3週間、ブラジル国に深井孝之助大阪大学微生物病研究所教授を団長とするワクチン製造プロジェクト事前調査団を派遣した。

同国に対する医療協力はレシーフェ市のベルナンブコ大学医学部熱帯医学研究所に対する協力、ポルトアレグレ市のリオグランデ・ド・スール・カトリック大学成人病研究所に対する協力をを行い、いずれも成功裡にその目的を達成し、日本・ブラジル双方の医療関係者の交流と友好親善に多大の成果を挙げてきた。

今回の調査目的は、上記2プロジェクトに引続きブラジル側から協力要請のあったワクチン製造プロジェクトに関し、ブラジル国政府およびプロジェクトの実施機関であるオズワルドクルス財団の関係者と意見の交換を行い、ブラジル側のニーズを的確に把握するとともにプロジェクト協力の可能性を検討するものであった。

本報告書はその調査結果を取りまとめたものであり、ここに本調査の任にあられた深井団長はじめ団員の方々並びにご協力いただいた関係者に対しこの機会をかりて深甚なる謝意を表するとともに、今後とも関係各位のご理解とご協力をお願いする次第である。

国際協力事業団

理 事 長 谷 川 正 男

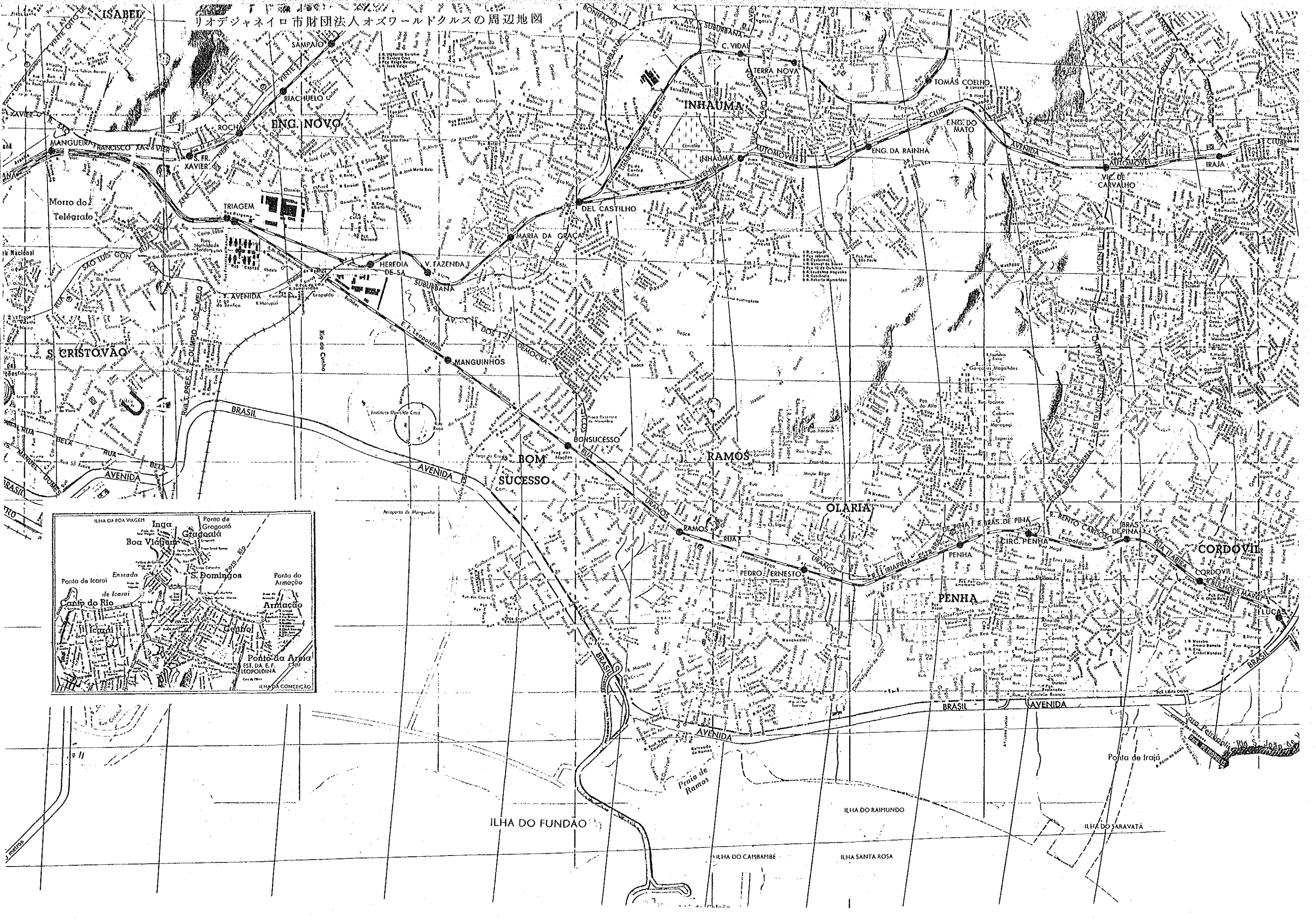
BRASIL POLÍTICO



MÁRIO PINTO

EGEDIL EDITORA GEOGRÁFICA E DIDÁTICA LTDA

リオデジャネイロ市財団法人オズワールドクルスの周辺地図



目 次

はじめに

I 調査団の構成	1
II 調査日程	2
III 関係者一覧	5
IV 調査団派遣の経緯と目的	7
V 調査概要	8
VI 総括	18
VII 参考資料	33

I 調査団の構成

団 長	深 井 孝之助	医学博士	大阪大学微生物病研究所教授
団 員	奥 野 良 臣	医学博士	大阪大学名誉教授 財団法人阪大微生物病研究会理事
団 員	伊 東 平 八	医学博士	財団法人日本ポリオ研究所理事長
団 員	白 石 英 一		国際協力事業団医療協力部医療第2課職員

II 調査日程

ブラジル ワクチン製造プロジェクト事前調査団調査日程

日順	月日	曜日	行程	調査	内容	容
1	1/11	金	東京 → ニューヨーク			
2	12	土	ニューヨーク →			
3	13	日	リオ・デ・ジャネイロ → ブラジリア			
4	14	月	9:00 JICA事務所 10:30 日本大使館 11:30 大統領府企画庁 (SUBIN) 14:30 衛生省 16:00 外務省	日程調整打合せ 表敬訪問 大口大使 他 表敬訪問 技術協力調整官 Dr Garry Soares de Lima 他 表敬訪問 衛生基本行動局長 Dr João Baptista Risi Junior 他 表敬訪問 国際協力課次長 Dr Sergio Tapajose 他		
5	15	火	10:00 日本大使館 14:30 衛生省 18:00 20:00	調査打合せ及び大使招待昼食会 保健医療に関する一般的状況についての協議 衛生基本行動局長・保健衛生国際関係調整官 他 大使館参事官招待夕食会		
6	16	水	9:00 医薬品本部 (CEME) 13:00 (午後) ブラジリア → リオ・デ・ジャネイロ	医薬品の生産・配給・研究に関する現状についての協議 医薬品本部総裁 Dr Leonildo Aldemir Wintor 他 移 動		

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
7	1/17	木	10:30 JICA事務所 11:30 総領事館(在リオ) 14:30 オズワルド・クルス財団 17:00	日程調整打合せ 表敬訪問・領事招待昼食会 平野領事 他 全体協議 OCF総裁 Dr. Guilardo Martins Alves 他
8	18	金	9:00 オズワルド・クルス財団 18:00	麻疹ワクチンの生産に関する協議 OCF技術開発担当副総裁 Dr. Enes Vital Brazil 他
9	19	土		調査団内で調査方針等の打合せ
10	20	日	リオ・デ・ジャネイロ → サンパウロ	移 動
11	21	月	9:00 サンパウロ州立ブタントンタン研究所 13:00 総領事館(在サンパウロ) (午後)サンパウロ → リオ・デ・ジャネイロ 17:30 総領事館(在リオ)	事業内容・施設整備状況について聴取・視察 研究所所長 Dr. Bruno Soerensen 他 表敬訪問・調査結果報告 総領事招待昼食会 伊藤総領事 他 移 動 調査結果報告(深井団長)
12	22	火	9:00 オズワルド・クルス財団 18:00	ポリオワクチンの生産に関する協議 OCF技術開発担当副総裁 他 奥野教授: 13:00~17:00 OCFの所内施設等の視察 (OCF細菌ワクチン試作部調整官 Dr. Eduardo Walter Leserの案内)

日順	月日	曜日	行程	調査内容	答
13	1/23	水	オズワールド・クルス財団 9:00 12:30 13:00 14:00 21:00	OCFの所内施設・設備の整備状況の視察 (奥野教授:10:00 PAMにてニューヨーク向け出発) 団長招待昼食会 OCF総裁他 協議事項の総括及び予備的報告書の起草 OCF技術開発担当副総裁 他	
14	24	木	オズワールド・クルス財団 9:00 12:30 13:00 (午後)リオ・デ・ジャネイロ → ブラジリア	予備的報告書の複製 OCF総裁招待昼食会 移動	
15	25	金	日本大使館 9:30 14:30 15:00 17:00 衛生省 衛生省	調査結果報告 予備的報告書の提出及び概要説明 衛生大臣 Dr Waldyr Mendes Ancoverde 最終的全体協議	
16	26	土	ブラジリア → リオ・デ・ジャネイロ	衛生省次官 Dr Mozart de Abreu e Lima 他	
17	27	日	→ ニューヨーク	移動	
18	28	月	→ 東京		
19	29	火			

III 関係者一覧

プロジェクト関係者氏名一覧

組 織 名	役 職 名	氏 名
大統領府企画庁	技術協力調整官	GARRY SOARES DE LIMA HARIA DO CARMO FREIRE V. DELLAPE
外務省	国際協力課次長	SERGIO TAPAJOSE
衛生省	衛生大臣 衛生次官 衛生基本行動局長 伝染病担当課長 保健衛生国際関係調整官	WALDYR MENDES ARCOVERDE MOZART DE ABREU E LIMA JÓÃO BAPTISTA RISI JUNIOR ROBERTO AUGUSTO BECKER VALERIE RUNJANEK CHAVES
公衆衛生所 (SESP)	伝染病統計情報担当課長	FERNANDO JOSÉ PEREIRA GOMES
オズワルド・クルス財団 (FIOCRUZ)	総 裁 技術開発担当副総裁 生物製剤製造所長 生物製剤製造所基礎支援技術調整官	GUILARDO MARTINS ALVES ENOS VITAL BRAZIL AKIRA HOMMA JOSE FONSECA DA CUNHA

組 織 名	役 職 名	氏 名
社会保険福祉省 医薬品本部 (CEME) サンパウロ州立ブタントン研究所	生物製剤製造所細菌ワクチン試作部調整管 研 究 員 プラジリア事務所長 総 裁 研究調査部長 品質管理部長 医薬品配給部長 所 長	EDUARDO WALTER LESER CLARA TACHIBANA YOSHIDA ANTONIO MACHADO REONILDO ALDEMIR WINTER ORLANDO RIBEIRO GONCALVES JOSE' CHAVIER MILTON LUIZ BRAGA BRUNO SOERENSEN

Ⅳ 調査団派遣の経緯と目的

ブラジルに対する医療協力プロジェクトは、これまでペルナンブコ大学熱帯医学研究所プロジェクト（昭和42年から昭和48年までレンシーフェ市の同研究所における寄生虫部門の整備拡充に協力したもの）及びリオグランデ・ド・スール・カトリック大学成人病研究所プロジェクト（昭和49年から昭和54年までポルトアレグレ市の同大学成人病研究所の新設に協力したもの）を実施してきたが、今般ブラジル国政府より麻疹及びポリオ両ワクチンの製造と管理に関するプロジェクト方式による技術協力を要請越したものである。

このプロジェクトの実施機関はリオ・デ・ジャネイロ市に所在する衛生省の財団法人オズワルド・クルスであり、同財団の生物製剤研究所における麻疹及びポリオ両ワクチンの製造と管理に関する技術レベルの向上を図りブラジル国内における両ワクチンの供給体制を確立しようとするものである。

この要請に基づき本調査チームは、ブラジル側の要請に至った経緯と背景及びその具体的内容について聴取、調査するとともに現在の研究製造の体制、技術水準、問題点を把握すること、併せて我国のプロジェクト方式技術協力の内容方式を十分説明して我国の技術協力案件として採用することの可能性、妥当性について協議検討することを目的として派遣したものである。

なお本調査団派遣の基本方針は次のとおりである。

- (1) 協力の基本的な考え方について共通の理解と基盤を確立すること。
- (2) 本プロジェクトの主眼となる麻疹及びポリオ両ワクチンの製造、管理技術の現状と将来について検討を深めるとともに、技術協力の望ましい姿をみだし、その方向付けを指すること。
- (3) 我国の協力可能なポリオワクチンの種類は、生ワクチンであることから、ブラジル側が不活化ワクチンを採用する場合は、我国としてポリオワクチンに関しては協力出来ない旨確認すること。

V 調 査 概 要

(1) プロジェクトの実施機関

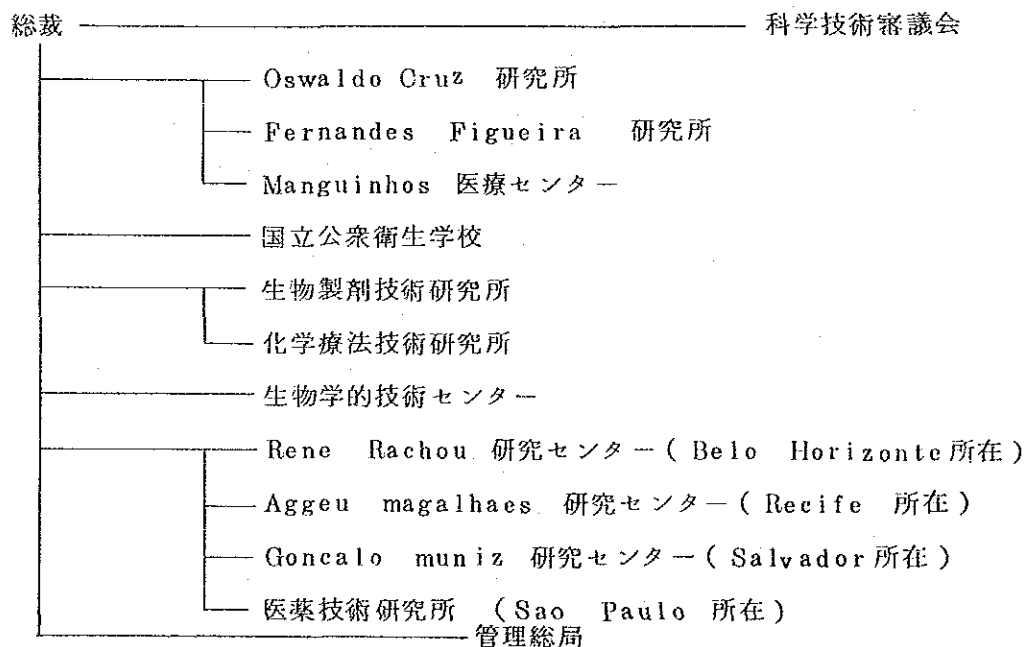
ブラジル側のプロジェクト実施機関は、リオ・デ・ジャネイロ市に所在する財団法人オズワルド・クルスである。同財団は、オズワルド・クルス研究所、フェルナンデス・フィゲイラ研究所、マンギイニョス医療センター、管理衛生学校、生物製剤技術研究所、化学療法技術研究所、医薬技術研究所等を有する総合的医学研究機関であり、本プロジェクトは、生物製剤技術研究所において実施しようとするものである。

財団法人オズワルド・クルスは、1970年に衛生省(MINISTERIO DA SAUDE)の所属機関として設立されたものであり、現在の職員数は1650名で国庫補助、生物製剤の売却による収益、FAS, FINEP, CEME, CPMI, CNPq-FNS, その他機関との協定によって得られる資金等によって維持されている。またその主な任務、機能及び組織構成は次のとおりである。

財団法人オズワルドクルスの主な任務機能

- 純国産製剤の生産。
- 研究者及び技術者の個別的、集団的指導育成。
- 保健上の特に国内に多発する疾病に関する研究。

財団法人オズワルドクルスの組織構成

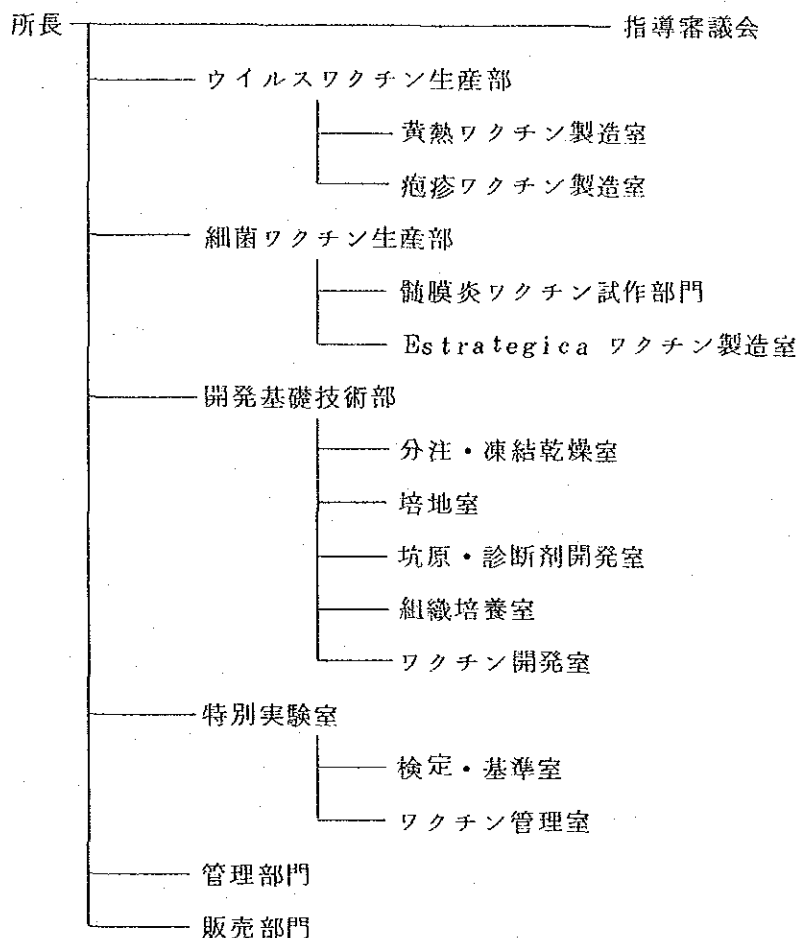


生物製剤技術研究所 (Bio - Manguinhos) は、財団法人オズワルド・クルスにおける生物製剤に関する研究及び生産を担当する部局として1976年設立されたものであり、現在の職員数は124名である。

同研究所は、現在黄熱ワクチン、脳膜炎ワクチン、コレラワクチン、腸チフスワクチンの生産 (黄熱ワクチンの生産は世界有数である) を行っており、またB型肝炎診断用試薬、腸内細菌鑑別用血清、シヤガス病およびトキソプラズマ用診断剤をも生産している。

なお組織構成は次のとおりである。

生物製剤技術研究所 (Bio - Manguinhos) の組織構成



(2) プロジェクト実施の必要性

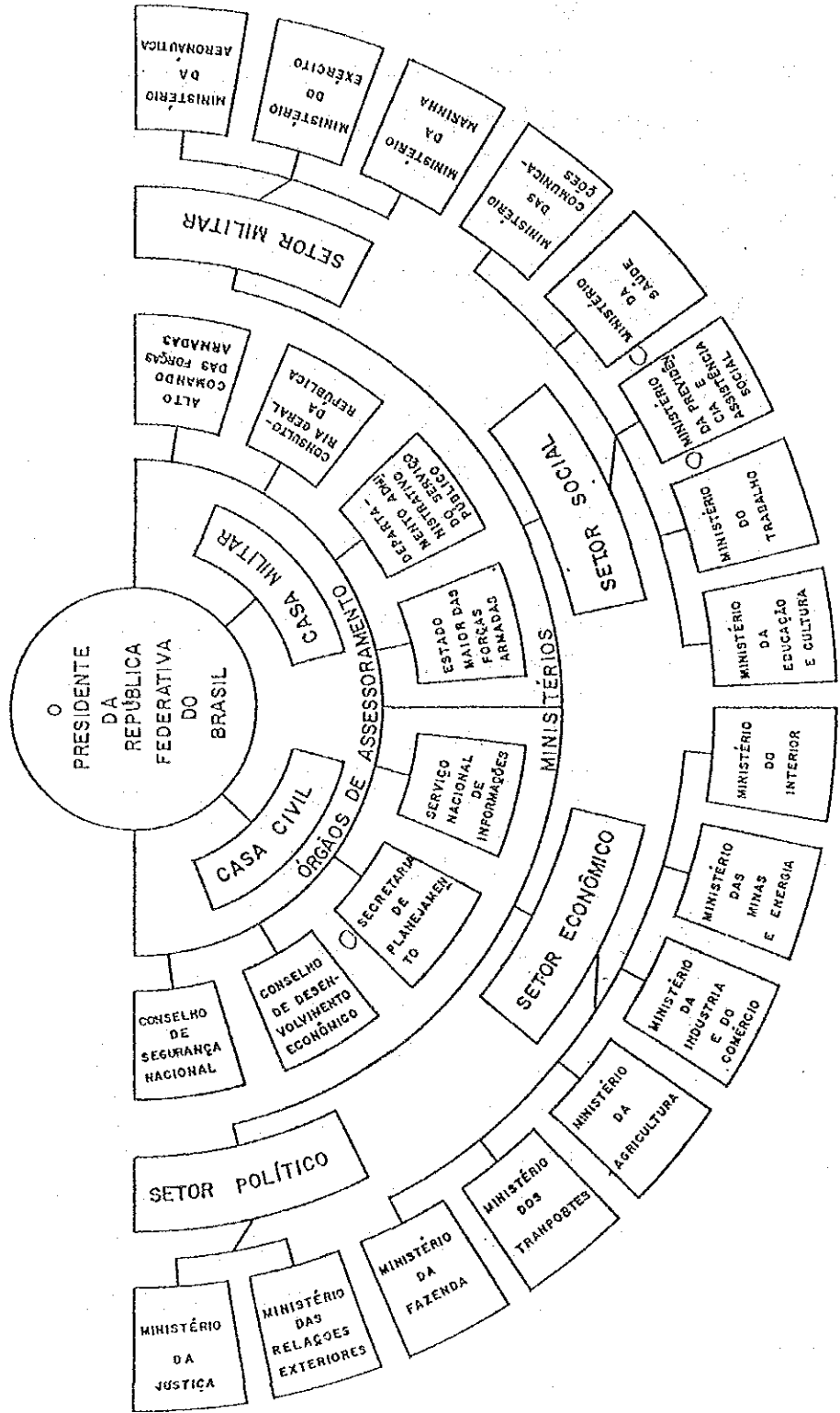
ブラジルでは、予防接種国家計画 (Programa Nacional De Immunizacoes 1973) に基づき防疫活動が実施されているが、国内において義務接種を実施しているワクチンのうち麻疹とポリオの両ワクチンは、未だに輸入に依存している。

このため

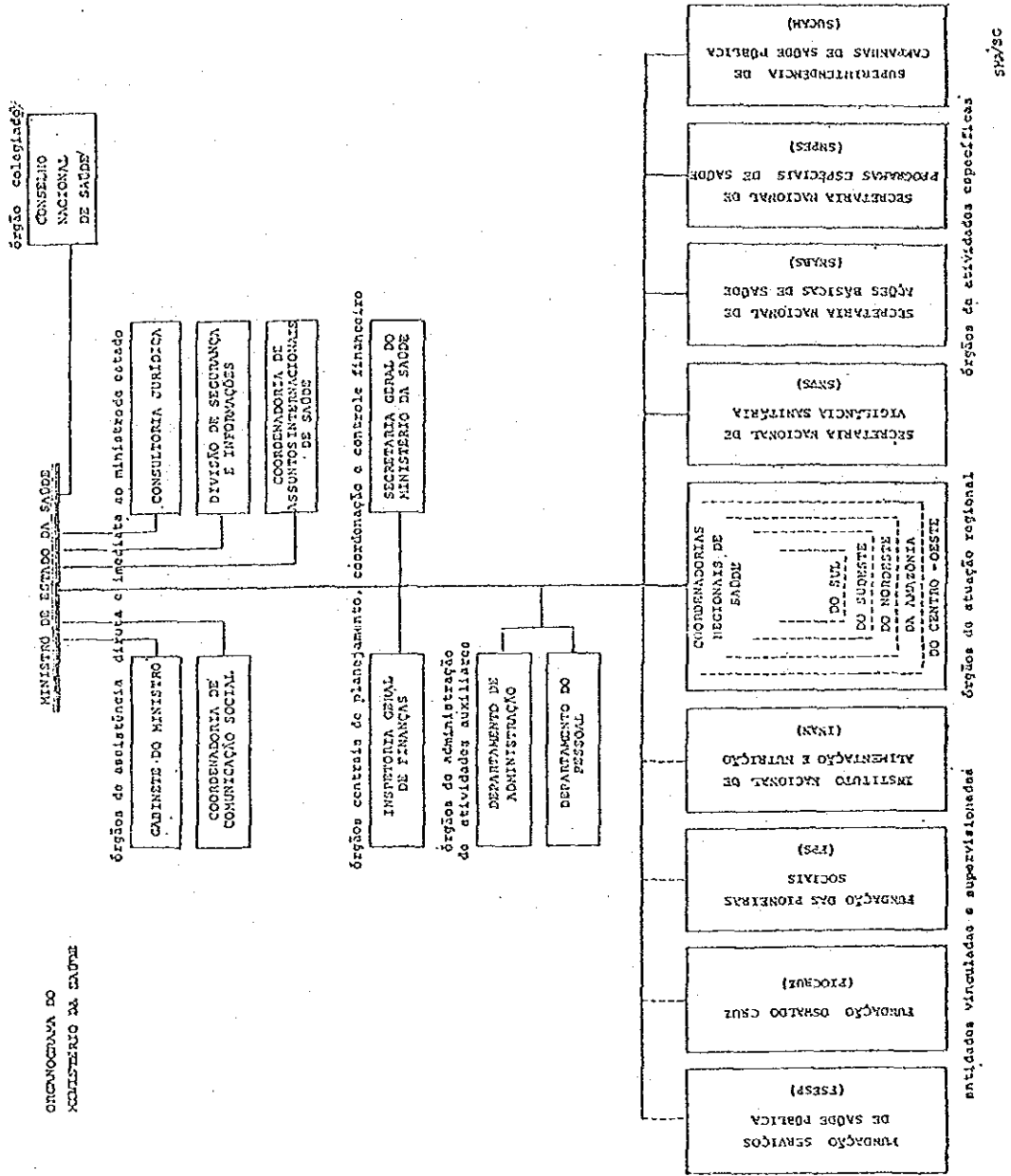
- ワクチンを輸入することによる外貨負担が重荷となっており、価格の変動が著しいこと。

連邦政府の組織図

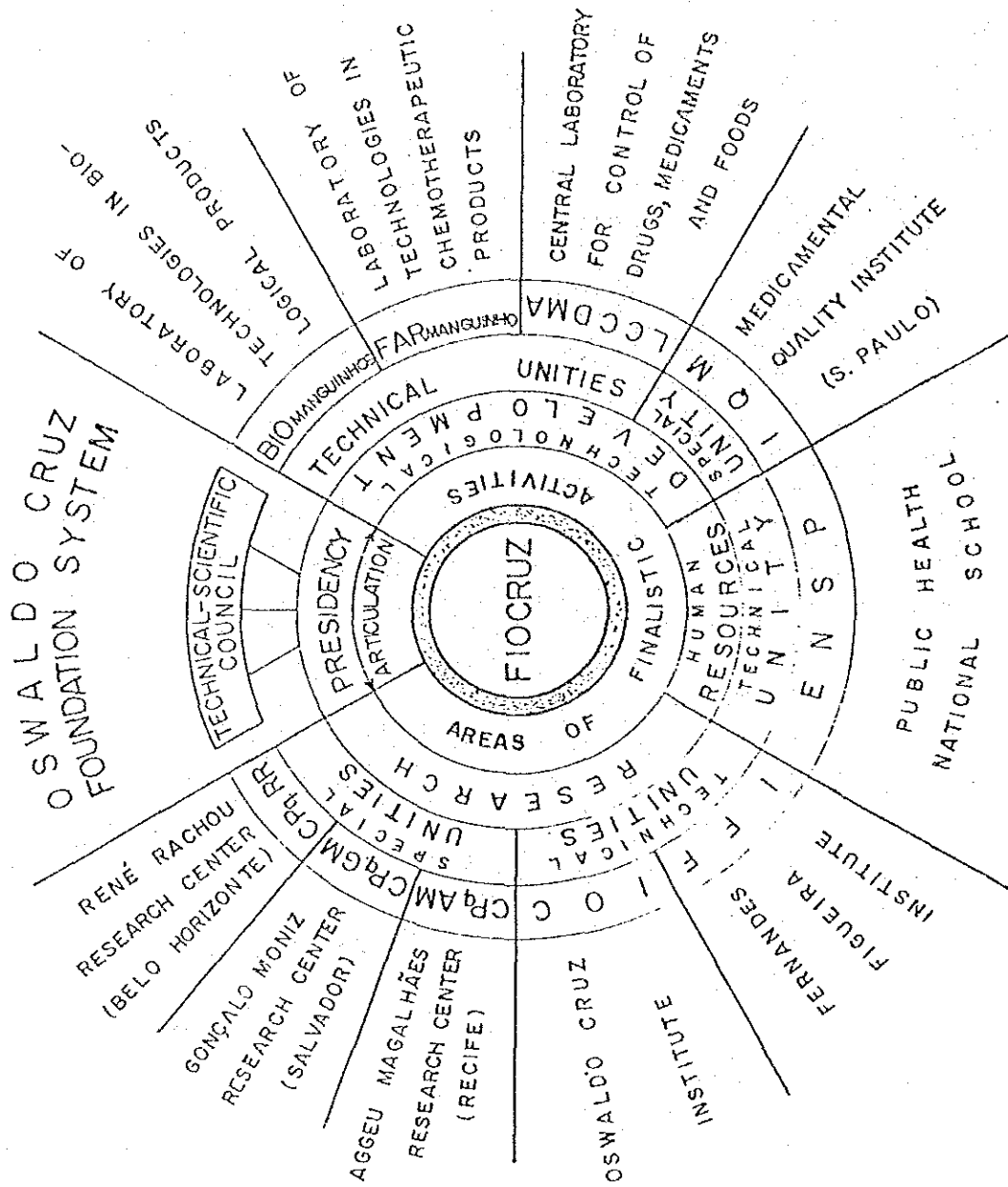
ORGANIZAÇÃO DA ADMINISTRAÇÃO FEDERAL
 DECRETO-LEI Nº 200 DE 25 DE FEVEREIRO DE 1967



衛生省組織圖



財団法人 オズワルドクルス組織図



- 輸出国（西欧諸国）の生産状況に左右されることからブラジル国が必要とする量を常時確保することが困難であること。

等により、上記予防接種国家計画推進上の障害となっている。

またワクチンの投与等防疫活動は、ほぼブラジルの全域にわたって実施されているにもかかわらず、依然として患者の発生が断えず大きな社会問題となりつつある。

これらの問題点を解決するには、

- ブラジル国独自の技術によるワクチンの生産体制の確立
- ワクチンの国家検定技術の向上と検定制度の確立
- ワクチンの品質管理、輸送及び投与体制の整備と技術の向上

等が必要不可欠であり、ブラジル国としては予防接種国家計画を推進するうえでの主要な課題として本プロジェクトを実施しようとしているものである。

日本側としては、麻疹、ポリオ両ワクチンとも自国生産に移行して以来の経験により、極めて高度の知識と技術を有するに至っていることから日本国内での協力体制に支障がないこと、また本プロジェクトは、ブラジル国の保健衛生を向上させるうえに大きな要素となることから適切な協力案件であると考えられる。

ポリオ・麻疹ワクチン輸入実績(1977年・1978年)

IMPORTAÇÃO DE VACINAS

1277

VACINA	Quantidade em doses		Preço e Valor da Aquisição			
	Individual	Frs. c/10 doses	Frs. c/25 doses	Valor Total		
				CFS	US\$	
1. Antipoliomielítica (I)	-	-	15.020.000	US\$ 0,0159	3.343.452,00	238.818,00 *(1)
2. Antipoliomielítica (II)	-	-	3.000.000 10.020.000	US\$ 0,0180	739.800,00 4.083.252,00 A	54.000,00 *(2) 292.818,00 - A
3. Anti-Sarampo (III)	-	1.800.000	-	US\$ 0,092	2.044.332,00 B	165.600,00 *(3)
4. Anti-Sarampo (IV)	-	1.000.000	-	US\$ 0,095	1.301.500,00 C	95.000,00 *(4)
5. Anti-Sarampo (V)	1.150.000	-	-	US\$ 0,385	5.917.353,75 D	442.750,00 *(5)
6. Anti-Sarampo (VI)	1.500.000	-	-	US\$ 0,30	9.283.185,75 A+E 13.346.437,75	450.000,00 E 1.153.350,00 F
					A + F	1.445.168,00

* (1) Cotação do dolar CR\$ 14,00
 * (2) " " " CR\$ 13,70
 * (3) " " " CR\$ 12,345
 * (4) " " " CR\$ 13,70
 * (5) " " " CR\$ 13,365

(I) - Bélgica - (RIT)
 (II) - URSS - (Medesport)
 (III) - Bélgica - (RIT)
 (IV) - Inglaterra - (Evans)
 (V) - França - (Merieux)
 (VI) - Bélgica - (RIT)

ポリオ・麻疹ワクチン供給実績（1978年）

IMPORNAÇÃO DE VACINAS

1 2 2 8

V A C I N A	Doses - Quantidade		Preço por Dose	Preço e Valor da Aquisição		
	Individual	Ers.c/10 doses		Preço por Ers.	US\$ Valor Total	
					Ers.c/25 doses	US\$
1 - Antipoliomielítica	-	-	US\$ 0,0154	US\$ 0,3850	4.012.470,00	231.000,00 * (1)
2 - Antipoliomielítica	-	-	US\$ 0,0159	US\$ 0,3975	1.985.771,61	119.409,00 * (2)
3 - Anti-Sarampo	1.000.000	-	US\$ 0,30	-	5.998.241,67(A)	350.409,00 (A)†
4 - Anti-Sarampo	-	2.000.000	US\$ 0,90	US\$ 0,09	4.660.500,00(B)	309.000,00 * (3)
5 - Anti-Sarampo	-	4.200.000	US\$ 0,90	US\$ 0,09	2.796.300,00(C)	180.000,00 * (4)
	1.000.000	6.200.000			6.286.140,00(D)	378.000,00 * (5)
					13.742.940,00(E)	858.000,00
					13.741.181,67	A + E
						1.208.000,00

- * (1) - Cotação do dólar CR\$ 17,37
- * (2) - " " CR\$ 16,63
- * (3) - " " CR\$ 15,535
- * (4) - " " CR\$ 15,535
- * (5) - " " CR\$ 16,63

ポリオ・麻疹ワクチンの輸入価格(1979年)

MPAS-CENTRAL DE MEDICAMENTOS-CEME
COORDENADORIA DE DISTRIBUIÇÃO-CODIST

VACINA ANTIPOLIOMIELÍTICA

Preço de aquisição em 1979-FOB

frasco com 20 doses..... US\$ 0,36 - Cr\$ 9,23.58
por dose..... US\$ 0.018- Cr\$ 0,46.17.90
cotação do dólar: Cr\$ 25,655

OBS: cada dose tem o seu custo colocado em cada Unidade
da Federação, em média, Cr\$ 0,77

VACINA ANTI-SARAMPO

a)- frasco com 10 doses..... Cr\$ 71,34
por dose..... Cr\$ 7,13.4

b) frasco com 5 doses..... Cr\$ 43,92
por dose..... Cr\$ 8,78

ポリオ・麻疹ワクチン供給収支(1979年)

MPAS-CENTRAL DE MEDICAMENTOS-CEME
COORDENADORIA DE DISTRIBUIÇÃO-CEME

VACINA ANTIPOLIOMIELÍTICA

estoque em 31.12.78.....	9.145.625 doses
compras em 1979.....	<u>18.200.000</u> doses
disponibilidade 1979.....	27.345.625 doses
distribuídas em 1979.....	<u>18.144.780</u> doses
saldo em 31.12.79.....	9.200.845 doses

VACINA ANTI-SARAMPO

estoque em 31.12.78.....	2.803.025 doses
compras em 1979.....	<u>2.791.000</u> doses
disponibilidade em 1979.....	5.594.025 doses
distribuídas em 1979.....	5.594.025 doses

OBSERVAÇÕES:

- 1- O saldo da vacina antipoliomielítica é a nível central no Rio de Janeiro sob controle direto da CEME. As compras foram efetuadas no exterior.
- 2- As compras da vacina anti-sarampo foram efetuadas no mercado interno (FIOCRUZ). Não houve estoque a nível central sob controle da CEME. O laboratório além das entregas manteve um estoque de cerca de 420.000 doses.

VI 総括

日本側調査団としては、ブラジル国政府機関及び関係者との協議検討を行った結果、本プロジェクトは日本・ブラジル医療協力プロジェクトとして採用することが可能でありかつ妥当と判断された。

よって日本・ブラジル両者間の協議、検討の結果をまとめおくとともに、後日派遣される実施協議チームの基礎資料として作成したのが「生物学的製剤に関する技術的・学術的協力のインテンション（指向点）の要約」である。

この要約は日本語、ポルトガル語により作成され日本・ブラジル双方が保管することとした。

なお、この要約は協議の結果意見の一致をみた諸事項についてとりまとめたものであり、双方を拘束するものではないとの基本認識から両者サインすることなく保有することとしたものである。

生物学的製剤に関する技術的学術的協力のイ
ンション（指向点）の要約

FIOCRUZ（衛生省所属）及び CEME（社会保障福祉所属）側代表と国際
協力事業団（ JICA* ）派遣事前調査団による技術的学術的協力に関する討議

「技術協力に関する日本国政府とブラジル連邦共和国政府との間の基本
協定」（1971年7月15日発効）に基づく技術協力

この要約は、ここに技術的、学術的に意見の一致をみた諸問題に関する将来の交渉のもととなるものとして作製されたものである。

協力の詳細に関しては、具体的細目決定のために今後派遣される調査団による協議によるものとする。

会議出席者

ブラジル側：技術学術代表団

1. Dr. Enos Vital Brazil
衛生省 Oswaldo Cruz 財団副総裁（技術開発担当）
2. Dr. Akira Homma
衛生省 Oswaldo Cruz 財団生物製剤製造所長
3. Dr. Orlando Ribeiro Gonçalves
社会保障福祉省 医薬品本部 研究調査官
4. Dr. José Fonseca da Cunha
衛生省 Oswaldo Cruz 財団生物製剤製造所
基礎支援技術調整官（部長相当）
5. Dr. Eduardo Walter Leser
衛生省 Oswaldo Cruz 財団生物製剤製造所
細菌ワクチン試作部調整官（部長相当）
6. Dra. Clara Tachibana Yoshida
衛生省 Oswaldo Cruz 財団
Oswaldo Cruz 研究所研究員

日本側：ブラジル国ワクチン製造プロジェクト事前調査団

1. 深井 孝之助
大阪大学教授 大阪大学微生物病研究所
2. 奥野 良臣
大阪大学名誉教授
財団法人阪大微生物病研究会

3. 伊 東 平 八

財団法人日本生ポリオワクチン研究所理事長

4. 白 石 英 一

国際協力事業団

会議日程

1月17日：予備的会議（FIOCRUZ 総裁司会）

1月18日：技術・学術的会議、はしかワクチンの生産について

1月22日：技術・学術的会議 ポリオワクチンの生産について

1月23日：Oswaldo Cruz 財団 Manghinos キャンパス視察

予備的報告書起草

1月24日：予備的報告書作製

双方の代表によつて大筋の諒解が得られた諸点は以下の如くである。

1. プロジェクトの名称

生物学的製剤の生産に関する技術協力

2. 目的

生物学的製剤生産の発展および関連要員訓練の技術的・学術的促進
特にハシカワクチン、ポリオワクチンの生産

3. 協力期間

3年間

ただし、更に3年間の期間更新の可能性を考慮すること。

4. ハシカワクチン

4-1. 日本における予防接種計画に採用されている奥野博士らによつて開発された CAM-70 株（附録2）がブラジル国におけるワクチン生産のために供与される。

この株の供与は、日本側関連機関の協議を経るものとする。

4-2. 要員の訓練および専門家の派遣

当技術協力においては、細胞生産、ウイルス生産および原材料とワクチンの品質管理を目的として要員の訓練を行なうこととする。

プロジェクト当初にあたり上記項目に関し、3名の大学卒要員が夫々3乃至6カ月間日本において研修を受けることとする。

日本側は、プロジェクトにおける協力およびフォローアップのために、上記に指定された項目分野の専門家1名を協力実施期間中ブラジル国に派遣する。

交流に参加する人員の数は、プロジェクトにおける必要性とプロジェクトの進捗に対応して、日伯双方による事前協議によつて変更され得ることとする。

上記の交流に関する経費は、日本政府によつて負担されるべきである。補助的技術者の訓練は、FIOCRUZ によつて実施される。

4-3. 装置、器材および消耗品

現時点において FIOCRUZ が要望するプロジェクト実施に必要な基本的装置、器材、消耗品は、附録 3 に提示されているとおりである。

日本側は、当技術協力プロジェクトに対する予算配分の範囲に応じてこれらを供与すること。

4-4. ワクチン生産用施設、設備のプランニング

プロジェクト指導の立場にある FIOCRUZ 技術者（複数）が、ブラジル国内におけるはしかワクチンの生産、品質管理および検定のための施設、設備の設立に関する企画立案に資するために、日本の関係諸機関を視察する必要がある。

4-5. はしかワクチンの供与

CAM-70 ワクチンと FIOCRUZ-CEPA Schwarz 株ワクチンとの免疫能力および副反応比較のためのブラジル国における試験接種を実施するため、日本側は、微研 CAM-70 ワクチンを供与する。

供与の量および時期は、双方による事前の協議によつて定めることとする。

5. ポリオワクチンのためのパイロットユニット

下記の項目は、主目的として品質管理機能の確立と、ポリオワクチン製造に関する補足的な分野を含むものとする。

5-1. 要員の訓練および専門家の派遣

当技術協力においては、細胞生産、ウイルス生産、原材料とワクチンの品質管理、および猿の飼育管理を目的として要員の訓練を行うこととする。

プロジェクト当初にあたり、上記項目に関し、4名の大学卒業要員が夫々3乃至6カ月間日本において研修を受けることとする。

日本側は、プロジェクトにおける協力およびフォローアップのために、上記に指定された項目分野の専門家1名を協力実施期間中ブラジル国に派遣する。

交流に参加する人員の数は、プロジェクトにおける必要性和プロジェクトの進捗に対応して、日伯双方による事前協議によつて変更され得ることとする。

上記の交流に関する経費は、日本政府によつて負担されるべきである。補助的技術者の訓練は、FIOCRUZ によつて実施される。

5-2. 機器、装置

現時点において、FIOCRUZ が要望するプロジェクト実施に必要な基本的機器、装置は附録4に提示されているとおりである。

日本側は、当技術協力プロジェクトに対する予算配分の範囲に応じて、これを供与すること。

5-3. 製造用猿と試験用猿の供給

双方代表団のメンバーは、製造用猿（ミドリザル・パタスザルなど）および試験用猿（アカゲザル・カニクイザルなど）の供給が極めて困難であることを認識した。

そしてまた、このプロジェクトが、ポリオワクチンの量産に向つて進展していくためには、猿の供給が必須な要素であるので、双方が真剣に取り扱うべき課題であると考えた。

従つて、この問題解決のために両者間の協力が必要となる。

5-4. ポリオウイルス浮遊液の送付

パイロットユニット プロジェクト実施のため、日本側は、試験ワクチンの製造、各種の品質管理試験および人員の訓練を可能ならしめることを目的として各型の単価ウイルス浮遊液を供与する。

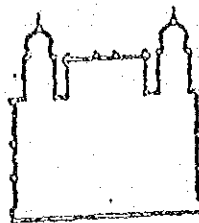
ただし、このウイルス浮遊液およびこれを混合して作成した試験ワクチンは、人体に使用されてはならない。

また送付量については、双方の事前の協議によつて決定する。

5-5. 施設・設備のプランニング

プロジェクト指導の立場にある FIOCRUZ 技術者（複数）が、ブラジル国内におけるポリオワクチンの生産、品質管理および検定のための施設・設備の設立に関する企画・立案に資するために、日本の関係諸機関を視察する必要がある。

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz

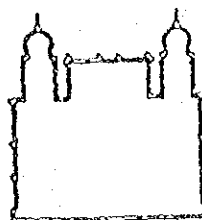


FIOCRUZ

SÍNTESE DAS INTENÇÕES DE COOPERAÇÃO TÉCNICO-CIENTÍFICO
EM PRODUTOS BIOLÓGICOS

Cooperação Técnico-Científica Discutida pelos Representantes da FIOCRZ/MS e da CEME/MPAS e Delegados da Japan International Cooperation/JICA*

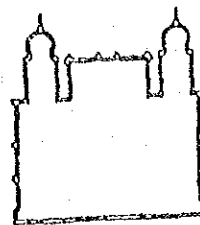
Cooperação Técnica baseada no Convênio Básico relativo à Cooperação Técnica entre o Governo do Brasil e do Japão, firmado em 15/07/1971.



Este documento foi elaborado para orientar futuras negociações nos pontos onde houve acordo nas questões técnico-científicas. O detalhamento da cooperação deverá ser conduzido posteriormente por outras delegações constituídas para este fim.

PARTICIPANTES:

- Delegação Técnico-Científica Brasileira
- Enos Vital Brazil - Vice-Presidente de Desenvolvimento Tecnológico da Fundação Oswaldo Cruz - Ministério da Saúde.
- Akira Homma - Superintendente de Bio-Manguinhos - Fundação Oswaldo Cruz - Ministério da Saúde.
- Orlando Ribeiro Gonçalves - Coordenador de Pesquisas - Central de Medicamentos - Ministério da Previdência e Assistência Social.
- José Fonseca da Cunha - Coordenador de Apoio Técnico - Bio-Manguinhos - Fundação Oswaldo Cruz - Ministério da Saúde
- Eduardo Walter Leser - Coordenador da Unidade Piloto de Vacinas Bacterianas - Bio-Manguinhos - Fundação Oswaldo Cruz - Ministério da Saúde
- Clara Tashibana Yoshida - Pesquisadora - Instituto Oswaldo Cruz - Fundação Oswaldo Cruz - Ministério da Saúde.



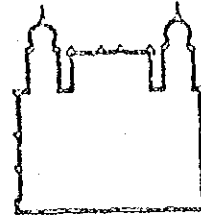
- Delegação Japonesa para Levantamento Preliminar
- Konosuke Fukai - Professor da Universidade de Osaka, Instituto de Pesquisas em Doenças Microbianas - Universidade de Osaka.
- Yoshiomi Okuno - Professor Emérito da Universidade de Osaka - Fundação para Doenças Microbianas, Universidade de Osaka.
- Heihachi Itoh - Diretor Geral, Instituto Japonês de Pesquisa em Poliomielite.
- Hidekazu Shiraish - Agencia Japonesa para Cooperação Internacional.

AGENDA DAS REUNIÕES:

- 17 de janeiro - Reunião preliminar, presidida pelo Presidente da FIOCRUZ.
- 18 de janeiro - Reunião técnico-científica, sobre a produção da vacina contra o Sarampo.
- 22 de janeiro - Reunião técnico-científica, sobre a produção da vacina contra a Poliomielite
- 23 de janeiro - Visita ao "campus" de Manguinhos e início da elaboração do Relatório Preliminar.
- 24 de janeiro - Confecção do Relatório Preliminar.

Ministério da Saúde

Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

As questões técnico-científicas nas quais houve amplo entendimento entre as delegações foram:

1 - Nome do Projeto - Cooperação de Tecnologia em Produtos Biológicos.

2 - Objetivos - Promoção técnico-científica e de recursos humanos em produção e desenvolvimento de produtos biológicos, especialmente na produção das vacinas contra o sarampo e a poliomielite.

3 - Duração - 3(tres) anos, com possibilidade de renovação por igual período.

4 - Vacina contra o Sarampo

4.1 - Cepa CAM-70, desenvolvida pelo Dr. Okuno e sua equipe (Anexo II), empregada rotineiramente nos programas de vacinação japoneses.

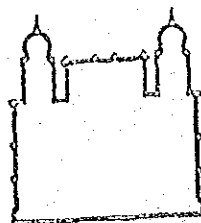
Será fornecida esta Cepa para produção da vacina no Brasil, dependendo de negociações entre os órgãos correlatos do Japão.

4.2 - Treinamento de Pessoal e Assessoria Técnica

Esta cooperação técnica prevê o treinamento de pessoal técnico destinado à produção de células, vírus e controle de qualidade da matéria-prima e da vacina. Inicialmente, tres técnicos de nível superior seriam enviados ao Japão por período variável entre 3(tres) e 6 (seis) meses, com esta finalidade. O lado japonês enviará ao Brasil um técnico especializado nas áreas acima especificadas, durante o período de tempo coberto

Ministério da Saúde

Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

pelo projeto, para acompanhamento e colaboração.

O número de pessoas envolvidas no intercâmbio poderá ser alterado de acordo com as necessidades e evolução do projeto, ouvidas previamente as partes interessadas.

As despesas decorrentes das operações acima deverão ser custeadas pelo governo japonês.

O treinamento de técnicos auxiliares será realizado pela FIOCRUZ.

4.3 - Equipamento, Material Permanente e de Consumo

O equipamento básico, o material permanente e o material de consumo necessários à implantação do projeto, segundo as pretensões atuais da FIOCRUZ, constam da lista apresentada no ANEXO III. O lado japonês estará encarregado de suprir estes itens de acordo com as disponibilidades financeiras do projeto na cooperação técnica.

4.4 - Planejamento do Laboratório de Produção da Vacina

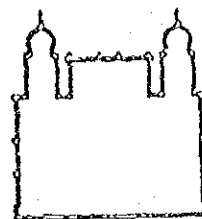
É necessário que os técnicos da FIOCRUZ, com responsabilidade no projeto, visitem diferentes instituições japonesas com a finalidade de planejar as instalações brasileiras do laboratório de produção e controle da vacina contra o sarampo.

4.5 - Fornecimento da vacina contra o Sarampo

Para realizar, no Brasil, vacinação experimental destinada a avaliar a capacidade imunogênica e as reações adversas e a comparar com a vacina contra o Sarampo - (FIOCRUZ - cepa Schwarz) o lado japonês fornecerá a vacina BIKEN (cepa CAM-70), na época e quantidades previamente estabelecidas por ambas as partes.

Ministério da Saúde

Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

5 - Unidade Piloto de Vacina contra a Poliomielite

Os sub-ítem abaixo enumerados têm como objetivos principais a implantação do Laboratório de Controle de Qualidade e diferentes setores complementares à produção da vacina contra a Poliomielite.

5.1 - Treinamento de Pessoal e Assessoria Técnica

Esta cooperação técnica prevê o treinamento de pessoal técnico destinado à produção de células, vírus e controle de qualidade da matéria prima e da vacina e da criação e controle de macacos. Inicialmente quatro técnicos de nível superior seriam enviados ao Japão por período variável entre 3(tres) e 6(seis) meses, com esta finalidade. O lado japonês enviará ao Brasil um técnico especializados nas áreas acima especificadas, durante o período de tempo coberto pelo projeto, para acompanhamento e colaboração.

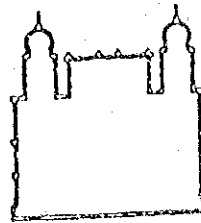
O número de pessoas envolvidas no intercâmbio poderá ser alterado de acordo com as necessidades e evolução do projeto, ouvidas previamente as partes interessadas.

As despesas decorrentes as operações acima deverão ser custeadas pelo governo japonês.

O treinamento de técnicos auxiliares será realizado pela FIOCRUZ.

5.2 - Equipamento

O equipamento básico necessário à implantação do projeto, segundo as premissões atuais da FIOCRUZ, consta da lista apresentada no Anexo IV. O lado japonês estará encarregado de suprir estes itens de acordo com as



disponibilidades financeiras do projeto na cooperação técnica.

5.3 - Suprimento de Macacos Destinados à Produção e ao Controle de Qualidade da Vacina

Os membros de ambas delegações reconhecendo a grande dificuldade quanto ao suprimento de macacos destinados à produção (*Cercopithecus*, *Pattas*, etc.) e ao controle de qualidade (*Rhesus*, *Cynomolgus*, etc.) e sendo este suprimento fator de importância vital para a evolução deste projeto para a produção em larga escala, consideraram que o assunto deve ser seriamente encarado. Portanto, torna-se necessária uma cooperação de ambas as partes para a solução do problema.

5.4 - Remessa de Suspensão Viral de Poliomielite

Para a implementação do Projeto da Unidade-Piloto, o lado japonês enviará suspensão viral monovalente de cada tipo para possibilitar a confecção experimental da vacina, testes de controle de qualidade e treinamento de pessoal. Porém, a vacina produzida a partir desta suspensão viral não se destinará ao uso humano. O volume da remessa será previamente determinado por ambas as partes.

5.5 - Planejamento do Laboratório

É necessário que os técnicos da FIOCRUZ, com responsabilidade no projeto visitem diferentes instituições japonesas com a finalidade de planejar as instalações brasileiras do laboratório de produção e controle de vacina contra a poliomielite.

Ⅶ 参 考 资 料

SEXTA-FEIRA, 4 DE JANEIRO DE 1980

Vacinação antipólio atingirá todo o País

Das sucursais e do serviço local

Os ministros Jair Soares, da Previdência e Assistência Social, e Waldyr Arcoverde, da Saúde, anunciaram ontem, em Brasília, o lançamento de uma campanha nacional de vacinação contra a poliomielite, a ser iniciada em março, que pretende imunizar 20 milhões de crianças de dois meses a cinco anos.

Todas as secretarias estaduais e municipais de Saúde deverão ser mobilizadas, além dos postos de atendimento do Inamps. Os Ministérios pretendem fazer a vacinação casa por casa e motivar a população por meio de filmes e textos para rádio, com o apoio da Secom.

Segundo o ministro Waldyr Arcoverde, o surto de pólio era esperado porque é cíclico, ocorrendo de três em três anos, mas já foi controlado. Até a segunda semana de dezembro, surgiram 2.222 casos, e a estimativa oficial é a de que o ano de 1979 fechou com 2.500 casos, matando 311 crianças. Em 1976, foram 2468 as ocorrências da pólio; 2.398 em 77, e 1711 em 78.

O ministro Jair Soares informou que todos os Estados têm vacina suficiente e pessoal para aplicar e distribuir doses. Mesmo assim, há um estoque de 9 milhões de doses, e o Ministério da Previdência e Assistência Social vai abrir uma concorrência no início de fevereiro para a compra de 31.131.800 doses, com custo previsto de Cr\$ 36 milhões.

Além disso, o ministro revelou que, nos três primeiros dias do ano, a Ceme distribuiu 1.446.000 doses pelo País para suprir e reforçar estoques, lembrando que, em 1979, foram distribuídas 70 milhões. "O problema não é de falta de vacinas, mas da população que não se mostra suficientemente motivada para se sentir responsável por sua própria saúde", observou.

O ministro Waldyr Arcoverde explicou que são necessárias três doses para cada criança e que, no Brasil, não se registra caso de adultos que tenham apanhado a doença. Disse também que uma dose a mais não prejudica e que, com

apenas uma, a criança pode ficar doente mas não fica parálitica. Ele garantiu que se 85% da população infantil considerada alvo da pólio (de dois meses a cinco anos) for imunizada este ano, será quebrada a cadeia epidemiológica e a doença não mais surgirá na forma de surtos, podendo ser mantida sob controle por meio de manutenção anual.

Além da pólio, também podem ser mantidos sob controle, segundo o ministro da Saúde, o sarampo, o tétano, a coqueluche e a difteria, pois não há falta de vacinas contra essas doenças.

MIGRANTE

Em São Paulo, ao explicar porque a Capital não conseguiu ainda erradicar totalmente a poliomielite, o diretor do Centro de Informações da Secretaria da Saúde, José Cássio de Moraes, atribuiu a causa às permanentes correntes migratórias que têm origem em regiões pobres de outros Estados e destino final em áreas igualmente pobres da região metropolitana. Os migrantes, segundo Cássio de Moraes, além de se concentrarem em áreas periféricas e paupérrimas, como ele diz, onde os recursos médicos são escassos, enfrentam dificuldades econômicas para garantir alimentação e moradia, principalmente, que acabam se sobrepondo a qualquer outra prioridade.

Em sua entrevista, em que fez referências a estatísticas que apontam 95% dos casos registrados em São Paulo atingindo crianças de até quatro anos de idade, Cássio de Moraes voltou a se recusar a divulgar os nomes dos 11 municípios limítrofes ao Estado do Paraná onde a cobertura de vacinação antipólio foi considerada insatisfatória. A recusa, como ele explicou, partiu de uma determinação do próprio secretário da Saúde, Adib Jatene, "para não alarmar a população da área e provocar, em consequência disso, uma corrida aos centros de Saúde locais que não poderiam garantir atendimento adequado, pois a eles falta infra-estrutura para casos de emergências". Cássio de Moraes nega, porém, o registro de qualquer caso de poliomielite em qualquer destes 11 municípios.



Ministério da Saúde implanta a campanha de erradicação da poliomielite

Saúde declara guerra contra a poliomielite

Vinte milhões de crianças serão imunizadas este ano

O ministro da Saúde, Waldir Arcoverde, anunciou ontem de manhã para ainda este mês, uma "verdadeira operação de guerra" contra a poliomielite, com a aplicação de quatro milhões de doses de vacina Sabin - 1 milhão 400 mil destinadas à região Sul e São Paulo e 2 milhões e 600 mil às demais regiões do país - o programa especial de controle da poliomielite.

O programa especial, através do qual serão aplicadas até o final deste ano um total de 36 milhões de doses de vacinas, imunizando 20 milhões de crianças (de 2 meses a 4 anos) suscetíveis à poliomielite, foi adotado em reunião de emergência presidida por Waldir Arcoverde. Do encontro participaram Mozart de Abreu e Lima, secretário-geral do Ministério da Saúde; Edilberto Antezana, da Opas; José Leite Saraiva, da Previdência; Leonildo Winter e Milton Braga, da Ceme; Hakira Honema, da Fiocruz; Fernando Gomes, da Fundação Sesp; Antônio Monteiro, da Corecentro; João Baptista Ris Jr., da Snabb e Roberto Becker, da Divisão Nacional de Epidemiologia.

Ao final da reunião, o ministro Arcoverde anunciou a compra de 42 milhões de doses de vacina Sabin - 10 milhões imediatamente através da Organização Pan-Americana de Saúde, e 30 milhões pela Central de Medicamentos.

CONSCIÊNCIA

Depois de revelar que o programa especial deve custar, só no tocante à compra de vacinas, mais de Cr\$ 48 milhões, o ministro da Saúde, destacou que "o povo terá de se conscientizar da necessidade de vacinar todos aqueles suscetíveis à poliomielite, pois da parte do Governo se continuará proporcionando tudo o que for necessário para quebrar a cadeia de transmissibilidade da doença".

"Neste programa vamos contar, de outra parte - assinalou Arcoverde - com a participação dos Ministérios da Previdência Social, do Interior, da Educação e Cultura, da Secom e de unidades das For-

ças Armadas, das secretarias estaduais de Saúde, Educação, Transportes, Serviços Sociais, Segurança Pública e prefeituras municipais".

Ainda de acordo com o ministro Waldir Arcoverde, o programa vai se constituir numa "verdadeira operação de guerra", com a vacinação chegando de casa em casa na periferia dos grandes centros, onde as populações não foram sensibilizadas pelos apelos dos meios de comunicação.

ESTOQUES

Assinalando que os estoques de vacinas - em poder do Ministério e das unidades estaduais de saúde - chegam hoje a 12 milhões de doses

Arcoverde destacou que "garantidos os estoques, vamos vacinar, neste ano próximo ano, toda a população exposta à doença, evitando novos surtos em 1982". O próximo passo é chegar aos Estados e estabelecer com as unidades sanitárias a melhor maneira de realizar a vacinação".

Segundo Waldir Arcoverde, o Ministério da Saúde, pretende vacinar 85 por cento da população exposta à Pólio, 15 por cento acima do nível recomendado pela Organização Pan-Americana de Saúde.

O ministro explicou que "embora se tenha atingido, em alguns Estados, como o Rio Grande do Sul, o nível recomendado pela Opas chegando a 70 por cento (antes dos anos 70), há baixíssimos níveis de vacinação em outras unidades da Federação, como o Maranhão, onde ficou constatado recentemente, que a vacina chega apenas a 4 por cento da população carente de imunização".

"Mas a situação não é desanimadora - ressaltou Arcoverde - pois em muitos Estados, como Rio de Janeiro, São Paulo e Minas Gerais, além do Rio Grande do Sul, a Pólio é mantida sob controle".

JAPÃO

Uma comissão de técnicos do Japão chegará ao Brasil no dia 17 de janeiro para estudar a possibilidade de instalação de um

laboratório no País para a fabricação da vacina Antipólio.

Para a execução do programa de imunização, o ministério irá comprar, através da Organização Pan-Americana de Saúde, um total de 10 milhões de doses de vacina. Também a Central de Medicamentos - CEME - já abriu concorrência para aquisição no mercado estrangeiro de 30 milhões de doses da vacina. Essa compra custará ao ministério da Saúde um total de 48 milhões de cruzeiros, já que a dose da vacina está sendo oferecida a Cr\$ 1,20.

As consultas ao mercado estrangeiro sobre a disponibilidade da vacina começaram a ser feitas ontem pela comissão encarregada de elaborar o programa. Com essa aquisição, o ministério terá um total de 52 milhões de doses de vacina em seu estoque para a implantação do programa nacional de imunização contra a poliomielite.

FRONTEIRA

Campo Grande - O secretário de Saúde do Mato Grosso do Sul, Walter de Castro, informou ontem, que cinco equipes de vacinadores estão percorrendo as cidades localizadas na divisa com o Paraná e duas outras estão localizadas no quilômetro seis da rodovia que liga a São Paulo e no aeroporto de Campo Grande com a missão de vacinar a população contra a poliomielite e impedir que o surto registrado no Paraná e em São Paulo chegue ao Centro - Oeste.

Até o momento, no entanto, os estoques de vacinas disponíveis no estado são insuficientes, especialmente para a vacinação das crianças de quinze municípios do interior onde menos de 25 por cento da população infantil já recebeu alguma dose da vacina. São 50 mil vacinas que devem ser distribuídas para 30 municípios mais próximos de São Paulo e do Paraná. Segundo informação divulgada ontem pelo Departamento de Epidemiologia da Secretaria de Saúde, apenas dois casos de poliomielite, isolados em Campo Grande e em Jardim, foram comunicados à secretaria.

Curitiba intensifica luta contra a pólio

Da sucursal e
dos correspondentes

Com 18 equipes volantes percorrendo as favelas e 80 postos fixos, a Secretaria da Saúde do Paraná intensificou ontem o esquema de vacinação contra a poliomielite em Curitiba, que apenas este ano já registrou quatro casos e um óbito. Todos os funcionários da Secretaria que estavam em férias reassumiram suas funções e outros setores do órgão foram convocados a se integrar no programa de controle epidemiológico.

A Igreja também se prontificou a auxiliar no esquema da Secretaria. Ontem, o arcebispo metropolitano de Curitiba, d. Pedro Fedatto, informou que enviou uma circular para todas as Igrejas do Estado e as 300 da Capital para que nesse domingo o sermão seja no sentido de alertar os pais e responsáveis pelo perigo da poliomielite. A Prefeitura de Curitiba e as do Interior colocaram seus funcionários e esquema de transporte no programa de vacinação em todo o Estado. Desde a noite de ontem, o Inamps mobilizou todos os seus postos para aplicar a Sabin. Os 1.200 técnicos da Superintendência das Campanhas do Ministério da Saúde — Sucan — também estão integrados na cobertura vacinal contra a paralisia infantil, tendo, inclusive, suspenso as demais atividades.

No Litoral, onde dois casos já foram registrados este ano, são principalmente os turistas que estão procurando os postos de vacinação. Mas o rastreamento está sendo realizado de casa em casa. "Dentro de 20 dias teremos uma queda drástica de casos", informou o médico Décio de Andrade Pacheco, da Secretaria da Saúde. Segundo

ele, 45% das crianças ficarão imunizadas com a primeira dose. E, dentro de seis meses, a doença estará erradicada do Estado. Até o final do mês, a Secretaria espera vacinar 120 mil crianças em Curitiba e mais de um milhão em todo o Estado.

Até ontem, a Secretaria da Saúde tinha a confirmação de 38 casos de poliomielite, neste mês, no Estado: 12 no Norte, com um óbito na cidade de Ribeirão Claro; dez na região Central, com um caso de morte em Ponta Grossa; sete no Sul; cinco na região metropolitana de Curitiba, também com uma morte, dois no Litoral e dois no Oeste. Na tentativa de controlar o surto que se generalizou em todo o Estado, 500 mil vaci-

nas haviam sido aplicadas até a tarde de ontem.

EM LONDRINA

O secretário da Saúde do Paraná, Oscar Alves, reuniu-se ontem, em Londrina, com representantes de 21 prefeituras da região, liberando as vacinas necessárias a cada município. Depois, em entrevista coletiva, comentou o surto de poliomielite: "Não quero dizer que a situação esteja sob controle, mas minha previsão é de que não temos motivos para estar tão preocupados como quando começamos a enfrentar o problema".

Antes de ir a Londrina, o secretário esteve em Apucarana, onde nos primeiros oito dias do ano foram registrados sete casos de poliomielite, um deles fatal. Em sua visita, Oscar Alves verificou as condições em que se processa a vacinação em massa na cidade.

Em Londrina, durante a entrevista, Oscar Alves admitiu a existência de clínicas particulares em várias regiões do Paraná que cobram preços abusivos — entre Cr\$ 100 e Cr\$ 150 cruzeiros — para a aplicação de vacinas que são cedidas gratuitamente pelo governo.

EM SOROCABA

A Divisão Regional de Saúde de Sorocaba já está preparada para iniciar a campanha de vacinação contra a poliomielite nos 59 municípios da região, a partir da segunda quinzena deste mês. Ontem, chegaram a Sorocaba 100 mil doses da vacina para serem distribuídas aos municípios. Segundo o médico Luís Garcia Duarte, diretor da Divisão Regional, já foram vacinadas 6 mil crianças nas cidades que limitam com o Paraná. A vacinação prossegue agora na zona rural.

Comissão chega dia 13

Da sucursal de
BRASÍLIA

Para examinar a possibilidade de produzir vacina antipólio no País, chegará a Brasília no dia 13 uma missão de técnicos japoneses que terá encontro com o ministro Waldyr Arcoverde, da Saúde, com especialistas da Fundação Oswaldo Cruz e também de São Paulo, do Rio de Janeiro e de Brasília.

A missão, integrada por quatro técnicos, visitará o Itamaraty, a Ceme, o Instituto Manguinhos e o Instituto Butantã. Além disso, os japoneses deverão se reunir com representantes de todos os órgãos envolvidos na produção de vacinas, já ao final da visita, que será encerrada no dia 26, com apresentação de um documento.

Ministro da Saúde vê pólio em Florianópolis

Florianópolis — O ministro da Saúde, Waldyr Arcoverde, que chegou na manhã de ontem a esta capital, a fim de examinar as medidas de combate ao surto de poliomielite, logo ao iniciar reunião na Secretaria da Saúde do Estado de Santa Catarina, assinou um convênio global no valor de Cr\$ 15 milhões e 296 mil para aplicação em diversos setores da área de saúde.

Depois de examinar o estágio do surto de pólio e avaliar o que já foi feito para ajudar a debelá-lo, estudou com os técnicos da secretaria uma nova estratégia para que se possa alcançar um nível desejado de imunização da comunidade catarinense. Falando na ocasião, evidenciou a necessidade do estabelecimento imediato, no Estado de Santa Catarina, de um programa de vigilância epidemiológica não só neste, bem como em outros setores, em especial nos Estados sulinos, para se evitar casos como o da pólio.

CONVENIOS

Declarou que na próxima semana, técnicos do Ministério da Saúde irão a Santa Catarina para

estudar, com técnicos da Saúde do Estado, o plano de aplicação dos recursos ontem conveniados.

O secretário Valdomiro Colautti, da Saúde, ao traçar um quadro do problema da pólio no Estado, disse que já foram constatados 78 casos oficiais notificados, 14 dos quais fatais, o que representa um índice de mais de 10 por cento. Acrescentou que isto deve significar algum surto com aplicação de outro tipo de moléstia, mas que o governo está atento ao fato e que agora, com colaboração do Ministério da Saúde, ainda maior atenção será dedicada ao problema.

Por outro lado, o governador Jorge Konder Bornhausen anunciou que está preparando um plano que prevê o aproveitamento dos estudantes catarinenses do setor de Saúde, pelo sistema de bolsas de trabalho, para colaborar em determinadas campanhas de esclarecimento e atendimento à população. E que, para este plano, além da colaboração de órgãos estaduais, espera contar com a colaboração também de órgãos federais, em especial o Ministério da Saúde.

A vacina dos japoneses

Uma missão japonesa, chefiada pelo Dr. Konosuke Fukui, chega ao Brasil hoje com a finalidade de estudar com especialistas da Fundação Oswaldo Cruz, do Ministério da Saúde, a produção de vacina antipólio no país. Os técnicos japoneses se reunirão no período de 14 a 25 de janeiro, com especialistas do Rio de Janeiro, São Paulo e do Distrito Federal. Em Brasília terão uma audiência com o ministro da Saúde, Waldyr Arcoverde.

Amanhã a missão japonesa, composta de quatro especialistas, estará em Brasília, onde se encontrará com representantes dos Ministérios das Relações Exteriores e da Saúde. No dia seguinte, os técnicos se reunirão com o secretário nacional de ações básicas de saúde, João Batista Risi Júnior.

Quarta-feira, às 9 horas, a missão se reunirá com o presidente da Central de Medicamentos (CEME), Leonildo Aldemir Winter e o coordenador de controle de qualidade, José Xavier.

VISITAS

No dia 17 os técnicos japoneses retornam ao Rio de

Janeiro, onde às 14 e 30, se reunirão com o presidente da Fiocruz, Guillard Martins Alves, o vice-presidente de tecnologia, Enos Vital Brasil, vice-presidente de recursos humanos, Ernane Braga e o vice-presidente de pesquisa, José Rodrigues Moura, além dos superintendentes de Biológicos, Manguinhos e Farmacologia, entre outros especialistas. A reunião prosseguirá no dia 18.

VACINAS

No dia 21, em São Paulo, a missão japonesa visitará, pela manhã, o Instituto Butantan, acompanhada do diretor Bruno Soerensen e do diretor do serviço de virologia, Murilo Adélino Soares.

Nos dias 22 a 24, os técnicos do Japão estarão novamente no Rio de Janeiro, em reuniões com especialistas da Fundação Oswaldo Cruz. No dia 25 a missão regressará a Brasília onde manterá audiência com o ministro da Saúde, Waldyr Arcoverde. Nesse dia, ainda, a delegação manterá contato com os órgãos envolvidos na produção da vacina, para apresentar o documento final da visita.

Japão pode produzir vacina anti-sarampo

Da sucursal de BRÁSILIA

A comissão de técnicos japoneses que chegou ontem ao Brasil para examinar a viabilidade de produzir vacinas antípólio, estudará, também, com as autoridades do Ministério da Saúde, a possibilidade de consolidar a produção de vacinas contra sarampo, iniciada no ano passado pela Fundação Oswaldo Cruz.

A comissão, que permanecerá no País até o dia 26, acertou, ontem mesmo, com a coordenadora de Assuntos Internacionais de Saúde do Ministério, Valerie Chaves, a aprovação da agenda de compromissos, e considerou "muito boa" a disposição das autoridades brasileiras para a produção da vacina.

Um representante da Flo-cruz, Akira Homma, que acom-

panhou a comissão japonesa, informou que em princípio há a pretensão do envio de técnicos para treinamento de brasileiros, além do teste de máquinas. Disse, também, que no dia 25 deste mês o ministro Waldyr Arcovede receberá os japoneses e um relatório minucioso sobre a viabilidade da produção da vacina antípólio.

A chefe da missão japonesa está com o professor Konosuke Fukai, do Instituto de Pesquisas em Doenças Microbianas, da Universidade de Osaka, e é integrada pelo professor Yoshio Okuno, pelo diretor geral do Instituto de Pesquisas em Poliomielite do Japão, Heihachi Ito e por Elchi Shirashi, da Agência Japonesa Internacional de Cooperação.

Dentre as vacinas obrigatórias, a única que não é produzida pelo Brasil é a antípólio. As

outras são a tríplice (coqueluche, difteria e tétano), BCG, contra sarampo e meningite.

INQUÉRITOS

Os delegados da Polícia Federal, Carlos Braz, de Niterói, e Elmar Alves, do Rio de Janeiro, foram designados para a presidência dos inquéritos que apuram a responsabilidade da Clínica Pediátrica Estácio de Sá e da Farmácia Leme, autuadas em flagrante pela venda ilícita de vacinas contra a poliomielite.

Tanto o ministro Jair Soares, da Previdência Social, como o presidente da Ceme, Leonildo Winter, disseram, ontem, desconhecer se já foi apurado o nome do responsável pelo desvio de lotes de vacinas cedidos pela Ceme. Segundo o ministro, é provável que o DPF esteja segurando informações para não prejudicar o andamento dos inquéritos.

Campanha contra pólio vai à TV e mobiliza cantores

Do serviço local e das sucursais

Até com a participação do cantor Roberto Carlos e da dupla calpira Tonico e Tinoco, começam as campanhas de vacinação em massa contra a poliomielite em São Paulo, Paraná e Rio Grande do Sul. Em São Paulo, o diretor do Centro de Informações de Saúde, da Secretaria de Saúde do Estado, José Cássio de Moraes, informou ontem que as crianças da Capital serão vacinadas no dia 8 de fevereiro e as da região metropolitana no dia 13. A campanha paulista será feita nos centros de saúde, postos das prefeituras, em alguns postos do Inamps e em praças públicas.

"Como o surto ocorreu em um Estado vizinho de São Paulo - afirmou José Cássio de Moraes - devemos tomar todas as providências possíveis para evitar casos neste Estado, mas a população não deve ficar alarmada, pois não há perigo de que

ocorra um surto aqui". O sanitarista informou ainda que está em contato diário com todos os municípios paulistas e que várias regionais decidiram intensificar a vacinação.

GRAVAÇÕES

Roberto Carlos gravou ontem, no Copacabana Palace Hotel, no Rio, um filme de 45 minutos com um apelo aos pais para que levem os filhos aos postos de vacinação, como parte da campanha contra a poliomielite promovida pela Secretaria de Saúde do Paraná. A gravação será levada ao ar na próxima semana pelas emissoras paranaenses de televisão, bem como pelas rádios, por meio de jingles.

Hoje, Tonico e Tinoco também fazem uma gravação semelhante, mas para atingir o meio rural. Ontem, o secretário de Imprensa do governador Ney Braga, Cleto de Assis, viajou para Brasília com o objetivo de conseguir, junto à Secom, que as gravações da campanha sejam veiculadas gratuitamente

nos horários destinados às falas presidenciais. Tanto o cantor quanto a dupla calpira aceitaram participar sem receber qualquer pagamento.

Enquanto isto, mais dois casos de internamento por paralisia infantil ocorreram ontem em União da Vitória e dois no Norte do Paraná, elevando-se o total para 43 casos e cinco mortes no Estado, apenas este ano.

EM CADA CASA

A Secretaria da Saúde do Rio Grande do Sul inicia hoje a campanha da vacinação antípólio, de casa em casa, nas 70 vilas populares de Porto Alegre, utilizando 100 vacinadores e 30 viaturas. Em dez dias, deverão aplicar 60 mil doses em mais de 18 mil residências. Calcula-se que 65% das crianças com até 5 anos foram vacinadas na capital gaúcha, índice que está acima da média do Estado. Com a campanha nas vilas, a Secretaria espera atingir um índice de cobertura próximo de 80%, considerado o ideal.

Acordo com o Japão pode levar Brasil a produzir vacina antipoliomielite

O Brasil poderá produzir dentro de um ano vacinas contra a poliomielite se entrar em vigor o acordo de cooperação internacional Brasil-Japão, que começou a ser negociado ontem, em Manguinhos, pelo presidente da Fundação Oswaldo Cruz, Guillard Martins Alves, e uma delegação de cientistas japoneses.

O acordo, que tem duração prevista para três anos, prevê a criação de uma Central de Cultura de Tecidos, muito importante na produção de vacinas determinadas por vírus, a consolidação da produção nacional da vacina contra o sarampo, o começo da produção da vacina contra a poliomielite.

Para o presidente da Fundação Oswaldo Cruz, se o acordo realmente se efetivar, dentro de pouco tempo o Brasil será auto-suficiente no campo das vacinas e reagentes biológicos de que necessita. O objetivo principal do programa é o fortalecimento da capacidade nacional em imunobiológicos.

A vacina contra a poliomielite é totalmente importada mas a vacina do sarampo é produzida aqui, a partir de uma suspensão de vírus importada da França. Somente este ano, o Brasil necessita de 36 milhões de doses de vacina contra a poliomielite e 10 milhões 500 mil de doses de vacina contra o sarampo, o que representa um investimento de, respectivamente, Cr\$ 31 milhões e Cr\$ 100 milhões, num total de Cr\$ 131 milhões.

Se se concretizar o intercâmbio técnico-científico entre o Brasil e o Japão, a Fiocruz receberá cientistas japoneses interessados em aprender técnicas de Medicina Tropical e Saúde Pública que, em troca, trarão tecnologia de fabricação de vacinas.

A Fiocruz já mantém outros dois acordos internacionais. Um, com o Instituto Merrier, da França, para produção de vacinas contra a meningite e para instalação, em Manguinhos, de um centro de virologia comparada.

O professor Guillard Martins Alves esclarece que, hoje, as vacinas contra a meningite já são fabricadas independentemente do Instituto Merrier, pois a tecnologia foi totalmente absorvida, inclusive o controle de qualidade. No ano passado foram produzidas 5 milhões, de doses da vacina.

Agora, o Instituto Merrier está criando o Centro de Virologia Comparada, um conjunto de laboratórios que vai trabalhar com as enteroviroses (responsáveis pela maioria das diarreias infecciosas), com as hepatites provocadas pelos vírus A e B, e com as viroses respiratórias, entre as quais está a gripe.

A Fiocruz também mantém convênio com a Alemanha Ocidental que será concluído em maio de 1980. Durante seus dois anos de duração, o Instituto Bernard Nocht criou o Centro de Microscopia Eletrônica em Manguinhos que, a partir de 1980, será dirigido por cientistas brasileiros.

Paraná já tem 56 casos fatais

Curitiba -- Com mais três casos confirmados de poliomielite nas últimas 24 horas, vai para 56 o número de crianças atingidas pela doença desde o início do ano no Paraná. Seis delas morreram. O Governo estadual estuda uma forma de ajudar as 270 vítimas da paralisia infantil constatadas desde o começo do ano passado, quando o surto surgiu.

A Secretaria Estadual de Saúde informou ontem que já foi concluída a aplicação da primeira dose da vacina antipólio em todas as favelas curitibanas. Dia 29 de março será aplicada a segunda e dia 25 de maio a terceira dose. O Secretário de Saúde, Oscar Alves, está em viagem pelo interior do Estado onde, em algumas cidades, a vacinação não está alcançando a rapidez que determinou.

Segundo a Secretaria de Saúde, quase 80% das 1 milhão 400 crianças de zero a cinco anos de idade, mais suscetíveis à doença, já estão vacinadas, graças a um esquema que funciona nos municípios com a colaboração da Igreja, Polícia Militar, Prefeituras e a Sucam. Com isso, afirma, diminuiu o ritmo de disseminação da pólio. Os três casos constatados ontem foram em Londrina, Catanduvas e Ribeirão Claro.

Japão ensina tecnologia de vacinas

Brasília — O Brasil passará a produzir e aplicar vacinas contra o sarampo utilizando tecnologia japonesa, de acordo com proposta da Japan International Cooperation Agency ontem aprovada pelo Ministro da Saúde, Sr Waldir Arcoverde. A proposta prevê também a fabricação de vacinas contra a poliomielite.

De acordo com o documento, o Brasil receberá do Japão a cepa conhecida como CAM-70, que serve de base para a produção das vacinas anti-sarampo do tipo empregado rotineiramente nos programas japoneses de imunização. Passará a contar ainda com a cooperação técnica japonesa para fabricação de vacinas contra a poliomielite que, como a anti-sarampo, será feita pelo Instituto Oswaldo Cruz.

Para cooperação técnica Brasil/Japão na produção de vacinas, que terá duração de três anos, ficou decidido que o Japão participará com 600 mil dólares (200 mil a cada ano); tecnologia para fabricação de vacinas antipólio e anti-sarampo; e equipamentos. O Brasil fornece o pessoal, a ser capacitado; controle de qualidade; e principalmente a difusão do cepa japonês, da vacina Biken anti-sarampo.

A vacina anti-sarampo Biken, desenvolvida no Japão pelo cientista Yoshiomi Okuno, será fornecida ao Brasil, pelo Japão, estando a produção brasileira prevista para daqui a um ano. Atualmente, a Fiocruz compra a matéria-prima no mercado internacional, limitando-se a diluí-la e enviá-la.

Japão ensina tecnologia de vacinas

Brasília — O Brasil passará a produzir e aplicar vacinas contra o sarampo utilizando tecnologia japonesa, de acordo com proposta da Japan International Cooperation Agency ontem aprovada pelo Ministro da Saúde, Sr Waldyr Arcoverde. A proposta prevê também a fabricação de vacinas contra a poliomielite.

De acordo com o documento, o Brasil receberá do Japão a cepa conhecida como CAM-70, que serve de base para a produção das vacinas anti-sarampo do tipo empregado rotineiramente nos programas japoneses de imunização. Passará a contar ainda com a cooperação técnica japonesa para fabricação de vacinas contra a poliomielite que, como a anti-sarampo, será feita pelo Instituto Oswaldo Cruz.

Para cooperação técnica Brasil/Japão na produção de vacinas, que terá duração de três anos, ficou decidido que o Japão participará com 600 mil dólares (200 mil a cada ano); tecnologia para fabricação de vacinas antipólio e anti-sarampo; e equipamentos. O Brasil fornece o pessoal, a ser capacitado; controle de qualidade; e principalmente a difusão do cepa japonês, da vacina Biken anti-sarampo.

A vacina anti-sarampo Biken, desenvolvida no Japão pelo cientista Yoshiomi Okuno, será fornecida ao Brasil, pelo Japão, estando a produção brasileira prevista para daqui a um ano. Atualmente, a Flocruz compra a matéria-prima no mercado internacional, limitando-se a diluí-la e enviá-la.

26. Jan. 1980

J. do Brasil 紙

Brasil vai produzir vacina contra pólio e sarampo

BRASILIA (O GLOBO) — O Brasil produzirá as vacinas anti-sarampo — dentro de um ano — e antipólio — até o final do Governo Figueiredo, conforme um contrato de cooperação firmado ontem entre os Governos brasileiro e japonês.

O Japão fornecerá a "cepa cam-70", matéria-prima para a produção da vacina anti-sarampo, equipamentos e tecnologia para a produção das duas vacinas, além de US\$ 600 mil, em três parcelas anuais de US\$ 200 mil. Em contrapartida, o Brasil participará com a difusão da "cepa cam-70", desenvolvida pelos japoneses, e com a formação de técnicos para controle de qualidade da produção. Essa proposta foi apresentada ao ministro da Saúde, Waldyr Arcoverde, por uma comissão japonesa, que veio ao Brasil estudar as possibilidades de produção da vacina, e foi aprovada imediatamente.

A principal constatação dos técnicos japoneses foi a de que o Brasil, através da Fundação Oswaldo Cruz, está qualificado para a produção da vacina Sabin, contra a poliomielite. Segundo os técnicos, o Brasil necessita do suprimento de macacos destinados à produção para o controle de qualidade.

O Brasil produzirá a vacina anti-sarampo dentro de um ano, suprimindo suas necessidades, com o fornecimento pelo Japão da "Cepa-cam-70", com equipamentos e materiais permanentes e de consumo necessários à implantação do projeto.

26. Jan. 1980 O Globo 紙

Vacina contra sarampo em 1 ano; de pólio em 5

Da sucursal de BRASÍLIA

Dentro de um ano, a Fundação Oswaldo Cruz (Flocruz) estará produzindo vacinas anti-sarampo, em escala industrial, e, no máximo até o final deste governo, espera estar atendendo às necessidades internas de imunizantes contra a poliomielite — ambos importados —, mediante o desenvolvimento de um projeto de cooperação tecnológica em produtos biológicos, que o Ministério da Saúde implantará em conjunto com a Jica - Japan International Cooperation Agency, nos próximos três anos.

Ontem, o ministro Waldyr Arcoverde, da Saúde, aprovou o primeiro documento elaborado pelos técnicos japoneses, especificando as intenções de cooperação técnico-científica em produtos biológicos. O projeto prevê a destinação ao Brasil de 600 mil dólares, cerca de Cr\$ 26 bilhões, pelo Japão, sendo 200 mil dólares por ano durante três anos, intercâmbio de técnicos, o recebimento da cepa (vírus), para produzir e aplicar a vacina contra o sarampo, transferência de tecnologia e equipamentos para a montagem de uma usina-piloto e do laboratório de controle de qualidade da pólio.

Para a produção de células,

vírus e controle de qualidade da matéria-prima da vacina anti-sarampo, será treinado pelo Japão pessoal técnico enviado pela Flocruz, que durante seis meses fará estágio na Jica. Por outro lado, virá ao Brasil um técnico japonês especializado para acompanhamento do projeto durante todo o período de sua execução.

Em relação à vacina contra a poliomielite, o programa de cooperação tecnológica em produtos biológicos objetiva a implantação de uma unidade piloto e do laboratório de controle e de qualidade, além do treinamento de pessoal e assessoria técnica.

26. Jan. 1980 O. E. de São Paulo 紙

財団法人オズワルド・クルスの概要

THE OSWALDO CRUZ FOUNDATION

A BRAZILIAN CENTRE FOR MEDICAL RESEARCH

HISTORY

STRUCTURE

ACTIVITIES

MINISTER OF HEALTH

Waldyr Mendes Arcoverde

OSWALDO CRUZ FOUNDATION - PRESIDENT

Guilardo Martins Alves

TECHNICAL-SCIENTIFIC COUNCIL OF THE FOUNDATION

Aloisio Rosa Prata
Aristides Pacheco Leão
Augusto de Escragnolle Taunay
Carlos Chagas Filho
Enos Vital Brazil
Ernani Braga
Frederico Simões Barbosa
Gobert de Araújo Costa
Heonir Jesus Pereira da Rocha
José Rodrigues Coura
Luiz Torres Barbosa
Otto Guilherme Bier
Raymundo Moniz de Aragão
Zeferino Vaz
Zilton Andrade

INTRODUCTION

The Oswaldo Cruz Foundation is one of the largest Brazilian research, teaching and technology centres of medicine and biology as applied to public health. It is supported by the Ministry of Health and by the National Council for Scientific Development and Technology (CNPq), which coordinates the National System of Scientific and Technological Development (SNDCT). This booklet gives a brief account of its history, structure and activities.

HISTORY

The site chosen for the first laboratories of the Oswaldo Cruz Foundation was Manguinhos Farm, situated on Guanabara Bay (Rio de Janeiro) between the Caju headland and the port of Inhaúma. The farm was destined to be the municipal rubbish dump but an outbreak of bubonic plague, an opportune government decision and the talent of Oswaldo Cruz gave rise in 1900 to the Federal Institute of Serum Therapy - the first laboratory of Medical Microbiology in the country. Its original purpose was specifically the production of vaccine against plague, but it gradually expanded along Pasteurian lines into a centre for research, vaccine production and teaching. Apart from its role in the control of plague in Brazil, the Institute's first notable success was the development and subsequent production in 1906 by Alcides Godoy of a vaccine against

blackleg of cattle. This discovery had an enormous impact in Brazil since at the time over 80% of young calves were dying from the disease. As a result of these initial successes the Institute gained prestige and financial support and soon became famous for its vaccine technology, the discovery and research on South American Trypanosomiasis (Chagas disease) and its training of scientists on the Applied Manguinhos Course. The Institute itself became popularly referred to as Manguinhos, a name still commonly used today.

MANGUINHOS TODAY

The original Federal Institute of Serum Therapy founded by Oswaldo Cruz greatly expanded over the years to become the present day Oswaldo Cruz Foundation (FIOCRUZ), whose functions are:

- 1) To formulate and coordinate medical research policies in conjunction with the Ministry of Health.
- 2) To provide research programmes in accordance with these policies.
- 3) To provide the necessary courses for the training of research workers and technologists in the fields of medicine and public health.
- 4) To develop the technology or adapt existing technology for the production of biological products necessary for public health.

5) To support health planning by the elaboration of surveys and projects for the Ministry of Health.

6) To provide specialised laboratory facilities necessary for Ministry of Health programmes.

In order to fulfill these requirements FIOCRUZ has developed in three main areas:

- research
- technology
- teaching

RESEARCH

The Oswaldo Cruz Foundation now comprises several research centres in Brazil, namely the Oswaldo Cruz and Fernandes Figueira Institutes in Rio de Janeiro, the René Rachou Centre in Belo Horizonte, the Aggeu Magalhães Centre in Recife and the Bahia Research Unit in Salvador. In addition the foundation maintains several field research stations such as the one at Bambuí in Minas Gerais.

Each team of research workers and technicians devote their studies exclusively to a certain project, which is reviewed and coordinated by a research council. Technical assistance is available to them in the tissue culture laboratories, the Bio-Medical Centre, reference laboratories and the electron microscope unit.

Certain areas of research which are considered to be of current national importance are designated

Priority Research Programmes. At present these include:

- Parasitic diseases - schistosomiasis and Chagas disease.

- Bacterial infections - enteric bacteria, leprosy and plague.

- Viral infections - enteric viruses.

- Maternal and child health.

Apart from these, basic research in bio-chemistry, pathology, microbiology, virology and tropical medicine is undertaken, with a view to providing support for the Priority Research Programmes.

TECHNOLOGY AND PRODUCTION

The development and subsequent manufacture of biological products continues today in a unit of FIOCRUZ known as BIO-MANGUINHOS, where vaccines against yellow fever, typhoid fever and herpes are produced. A plant recently donated by the Merieux Laboratories of France now produces anti-meningococcus vaccines (A and B). Another unit of the Foundation, FAR-MANGUINHOS, is concerned with research and production of pharmaceuticals and pesticides, and manufactures a number of products for public health use. Its most recent molluscicide FIOCRUZ-001 promises to be effective against Planorbis snails, the vectors of schistosomiasis.

TEACHING

Since government policy has changed from clinical treatment of individual patients to a more general approach embracing all aspects of disease transmission and control, the training of specialists in the field of public health has assumed a position of greater importance. Such training is mainly provided by the National School of Public Health (ENSP), another unit of FIOCRUZ.

The school, which is directed by the Foundation's Council for Human Resources offers the following courses:

- a) A basic course in public health for graduates.
- b) Regionalised and decentralised basic course.
- c) Postgraduate courses in public health and epidemiology, advanced courses in epidemiology, environmental health administration and planning; and courses for health inspectors.
- d) Residence in public health.
- e) Special courses.

Other units of FIOCRUZ participate in the teaching of Masters degree courses in Medical Virology, Medical Parasitology and Public Health, which are coordinated by the Postgraduate Commission.

Residences in the epidemiology of infant health problems are offered by the Fernandes Figueira Institute.

Two further training schemes are offered by FIOCRUZ. The advanced in service scheme or TAS is open to graduates destined to be future research workers at the Foundation, and consists of a full time two year training period. During the first year (TAS-G/1) the student is

given a basic preparation for research and studies a specific research project in one of the Foundation's laboratories in the second year (TAS-G/2). The basic in service scheme or ESTAGIO is aimed at the non graduate and consists of two phases E1 and E2. The first phase gives a general introduction to research work and the second, basic training in a selected research field.

GRANTS

The financing of candidates for the Foundation's training courses is provided by FIOCRUZ from grants given by CNPq. The scheme is probationary for three years as grants were previously directly awarded by CNPq. It is hoped that the new system will greatly facilitate the administration of these courses and allow the Foundation to directly control the recruitment and training of research worker in accordance with these needs.

ARTHROPOD COLLECTION

This is sub-divided into six collections:

General Collection

This is continuously undergoing expansion and contains about 450,000 isects. Included in it are incl

collections made by F. Zikán at Itatiaia, the butterflies of Lauro Travassos and part of the Adolfo Lutz collection.

Costa Lima Collection

Includes examples of almost all the insects orders.

Henrique Araqão Collection

Of Ixoid ticks.

Fábio Werneck Collection

Contains 4,100 preparations of Anopluran and Mallophagan lice.

Cesar Pinto Collection

Comprises insects of medical importance.

Octavio Mangabeira Filho Collection

Consists of numerous preparations of Phlebotomid sand flies.

The various collections contain type specimens which are frequently consulted by Brazilian and foreign workers. The total number of specimens in these collections is about 1,200,00; a large proportion of which has yet to be classified.

HELMINTH COLLECTION

This large collection, the only one of its

kind in South America contains about 32,000 specimens. It represents the work, accumulated since 1907, of famous research workers such as Adolfo Lutz, and Lauro Travassos. The collection contains 1,500 species of nematodes, 500 species of trematode, 500 of cestodes, 200 of acanthocephalans and 20 of linguatilis, many of which are types.

OTHER COLLECTIONS

FIOCRUZ also maintains other collections including fungi, bacteria and molluscs.

OSWALDO CRUZ MUSEUM

This is located in the Moorish Pavilion next to the main library. It contains over 2000 exhibits of the works of Oswaldo Cruz and his collaborators. Some of the more notable documents are the thesis manuscript of Oswaldo Cruz on the importance of waterborne microbes, his laboratory notes, photographs and various awards amongst which is the Legion d'Honneur of France. The collection also contains some of the equipment used at the time including a telephone, dictaphone and laboratory apparatus. Also exhibited are the diplomas from international meetings and an extensive photographic record of the initial phases of construction of the Institute, of its research workers and important visitors including

President Theodore Roosevelt. Of some historical interest is the collection of newspaper cartoons of the time depicting public health campaigns against yellow fever and bubonic plague that were directed by Oswaldo Cruz.

TEACHING MUSEUM

Live demonstrations (aquaria, microscope slides), photographic exhibits, slides and annotated wall charts are displayed in this museum to inform the visitor of the type of research and vaccine production that is carried out in FIOCRUZ.

LIBRARIES

The main library of FIOCRUZ is situated on the third floor of the Moorish Pavilion at Manguinhos and contains a large range of books, papers and journals on various branches of science.

The collection of books numbers some 30,000 and contains rare volumes dating back 1660.

The library contains 5,675 different journals of which 1,483 are currently purchased. Some of the titles cover the last two centuries viz:

Annals de Chimie et de Physique, since 1789.

Annalen der Physik, since 1790

Proceedings of the Royal Society London,
since 1800.

Flora Oder Allgemeine Botanische Zeitung,
since 1819.

Lancet, since 1824.

Justus Liebig's Annalen der Chemie, since 1832.

Virchows Archiv Für Pathologische Anatomie
und Physiologie und Klinische Medizin, since 1847.

Berichte der Deutschen Chemischen
Gesellschaft, since 1868.

Zoological Record, since 1864.

Included amongst the classic works from all
branches of science are:

Rabenhorst, L. "Kryptogamen-Flora", 1881,
Saccardo, P.A.;

"Sylloge fungorum omnium hucusque cognitorum",
1882, original edition;

Kolle und Wasserman - "Handbuch der pathogen
Mikroorganismen", 1902, 1912 and 1927 editions;

Schulze, F.E. (ed.) "Das Tierreich", 1896,
Wistmar, P. (ed.) "Genera insectorum", 1902;

"Beilstein F.K. Handbuch der organischen Chemie,
1893, 1918;

Martius Flora brasilienses, 1840;

Anderhalden E. "Handbuch der biologischen
Arbeitsmethoden", 1925, etc.

CENTRAL ANIMAL HOUSE AND PRIMATE CENTRE

A stock of experimental animals numbering 2000 guinea pigs, 10,000 mice, 1000 hamsters, 500 rabbits and 1000 white rats is maintained by FIOCRUZ for use in research and vaccine production. Genetically pure lines of laboratory animals are also produced. Rhesus monkeys (*M.mulata*) are available for research and for testing certain products such as yellow fever vaccine. The monkeys are kept in their natural habitat and the colony is the only one of its kind in the South American continent.

DEPARTMENTAL LIBRARIES

Specialised library facilities are available at the National School for Public Health, and in the Foundation's centres at Salvador, Recife and Belo Horizonte.

FOREIGN LINKS

The Foundation encourages foreign cooperation in its research and technology programmes. Recently a technical agreement was made with the Bernhard Nocht Institute in Hamburg which will now participate in

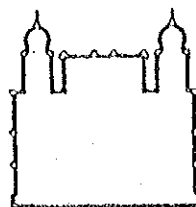
research on tropical medicine currently conducted by the Foundation. An electron microscope unit and its auxiliary laboratories has been installed by German scientists, who during the next three years will work jointly with Brazilian scientists on projects of mutual interest such as Chagas disease, leishmaniasis, tropical viruses and helminth infections. Exchange visits between the two countries are also envisaged.

SOCIAL ACTIVITIES

These are organised by the Foundation's Employee's Association (ASFOC) and consist of various sports and social events during the year. The Association provides several services including employee's welfare, legal, advice, insurance schemes and medical and dental facilities.

Social activities are organised to commemorate Easter, Independence Day, Children's Day, Christmas, etc. Sports facilities include athletics, football (indoor and outdoor pitches), table tennis, chess and drafts.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

AUTHORITIES

Av. Brasil, 4 365 — Manguinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20 600
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9988 PABX

PRESIDENT, OSWALDO CRUZ FOUNDATION
Prof. GUILARDO MARTINS ALVES

VICE-PRESIDENT FOR RESEARCH
Prof. JOSÉ RODRIGUES COURA

VICE-PRESIDENT FOR HUMAN RESOURCES
Dr. ERNANI DE PAIVA FERREIRA BRAGA

VICE-PRESIDENT FOR TECHNOLOGY
Dr. ENOS VITAL BRAZIL

CHIEF OF THE PRESIDENCY OFFICE
Dr. ANTONIO BARPOS CORRÊA NETTO

GENERAL ADMINISTRATION SUPERINTENDENT
Dr. IVANILDO DE MELO BARBOSA

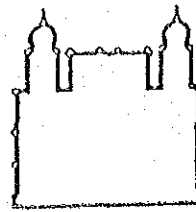
BIOMANGUINHOS SUPERINTENDENT
Dr. AKIRA HOMMA

FARMANGUINHOS SUPERINTENDENT
Dr. PAULO BARRAGAT

MEDICAMENTAL QUALITY INSTITUTE SUPERINTENDENT
Dr. GERMÍNIO NAZÁRIO

CENTRAL LABORATORY FOR CONTROL OF DRUGS, MEDICAMENTS
AND FOOD, SUPERINTENDENT
General WASHINGTON AUGUSTO DE ALMEIDA

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9988 PABX

CENTER FOR TECHNICAL AND BIOLOGICAL INFRASTRUCTURE,
SUPERINTENDENT

Dr. GILBERTO DE AZEVEDO TEIXEIRA

FERNANDES FIGUEIRA INSTITUTE DIRECTOR

Dr. NEWTON POTSCHE MAGALHÃES

RENÉ RACHOU RESEARCH CENTER DIRECTOR

Dr. ZIGMAN BRENER

AGEU MAGALHÃES RESEARCH CENTER, DIRECTOR

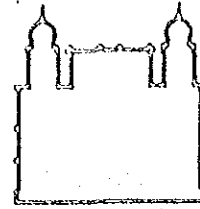
Dr. AGEU MAGALHÃES FILHO

GONÇALO MONIZ RESEARCH CENTER DIRECTOR

Dr. ITALO DE ARAÚJO SHERLOCK

BRASILIA REGIONAL DIRETOR

Dr. ANTONIO JOSÉ DE SOUZA MACHADO



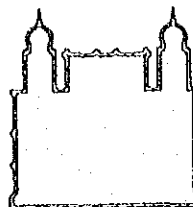
OSWALDO CRUZ INSTITUTE

DEPARTMENTS, RESEARCH CENTERS AND PERSONNEL IN
CHARGE

- 1) Protozoology: Dra. Maria Deane
- 2) Helminatology: Dr. Luiz Fernando R.F. da Silva
- 3) Bacteriology: Dr. Ernesto Hofer
- 4) Virology: Dr. Hermann G. Schatzmayr
- 5) Entomology: Dr. Leonidas Deane
- 6) Malacology: Dr. Lobato Paraense
- 7) Immunology: Dr. Bernardo Galvão
- 8) Pathology: Dr. Gilberto Teixeira
- 9) Electronic Microscope: Dr. Frank Ebert
- 10) Tropical Medicine: Prof. J. Rodrigues Coura
- 11) Biochemistry: Dr. Walo Leuzinger
- 12) Molecular Biology: Dr. Carlos Morel
- 13) René Rachou Research Center (Belo Horizonte)
Prof. Zigman Brener
- 14) Gonçalo Moniz Research Center (Salvador)
Prof. Zilton Andrade
- 15) Ageu Magalhães Research Center (Recife)
Prof. Ageu Magalhães Filho

There is a possibility for training of one or two
japanese individuals, in each sector for a period of one
to three years.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 -- Manguinhos
Cx. Postal, 926 -- CEP 20.000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9988 PABX

OSWALDO CRUZ FOUNDATION FINANCIAL RESOURCES - YEARS OF 1978, 1979
AND 1980

Year of 1978

Funds obtained directly from the Ministry of Health	400.991.000,00
Other sources	241.799.000,00
Total	642.790.000,00

Year of 1979

Funds obtained directly from the Ministry of Health	587.160.600,00
Other sources	431.126.000,00
Total	1.018.286.600,00

Year of 1980

Funds obtained directly from the Ministry of Health	632.691.000,00
Other sources	847.004.000,00
Total	1.479.695.000,00

ENTIDADES INTERNACIONAIS

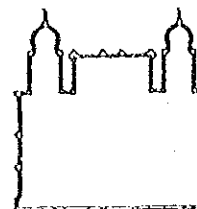
DENOMINAÇÃO	OBJETIVO
FUNDATION MERIEUX	<ol style="list-style-type: none">1- Cooperação Científica na implantação de um Centro de Virologia, visando o Desenvolvimento de Pesquisas Científicas, para o qual seriam doados equipamentos e instrumentos sem equivalente nacional no Brasil e necessários ao bom exito das Pesquisas. (1977/80)2- Doação de bens, destinados a instalação de uma unidade piloto para a produção de vacinas antimeningococicas e outras vacinas bacterianas. (1975).
ORGANIZAÇÃO MUNDIAL DE SAUDE	<ol style="list-style-type: none">1 - Implantação de um centro de imunologia parasitária na FIOCRUZ, desenvolver a capacidade de pesquisa em doenças de Chagas, Leishmaniose e Xistossomose e estabelecer uma estrutura que permita a formação de pesquisadores e técnicos em ambito local. (1979/80)
ORGANIZAÇÃO PAN-AMERICANA DE SAUDE	<ol style="list-style-type: none">1 - Fortalecimento das atividades de vigilância sanitária de Medicamentos no Pais, criar e organizar o Instituto de Qualidade de Medicamentos, melhorar as condições de funcionamento do LCCDMA
INSTITUTO BERNHARD-NOCHT-DE HAMBURGO	<ol style="list-style-type: none">1- Exploração de novos metodos de investigação na realização de projetos de pesquisa biomédica de doenças tropicais visando o incremento da cooperação nos projetos de Investigação e Planejamento no ambito da Medicina Tropical.

ORGANIZAÇÃO PAN-AMERI
CANIA DA SAÚDE

- 1 - Implementar a terceira área prevista no Plano de Recursos Humanos para a Saúde, elaborado pelo Grupo de Trabalho instituído pelo Ministro da Saúde Supervisionado pelo PPREPS.

REPUBLICA DEMOCRATICA
ALEMÃ - Firma DEUTSCHE
EXPORT UND IMPORTGESEL-
LSCHAFT FEINMECHANIK-
OPTIK.G.m.b.H. BERLIM

- 1 - Termo de Contrato para equipar labora-
tórios técnicos-científicos e a aten-
der as atividades de pesquisas em Saú-
de da Fundação Oswaldo Cruz.
(MICROSCOPIA ELETRONICA)



Av. Brasil, 4365 -- Manguinho
Cx. Postal, 926 -- CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9985 PABX

Possibilities of training places

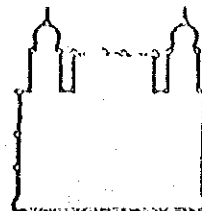
In the Oswaldo Cruz Institute

- One to two Japanese in each Department and in the Research Centers for a period of one to three years

In the National School Of Public Health

- Department of Epidemiology and Quantitative Methods in Health
Coordinator: Prof. Paulo Sabroza
Two Japanese, beginning in April, for a period of approximately four months
- Department of Biological Sciences
Coordinator: Prof. Luis Fernando Ferreira da Silva
Two Japanese, beginning in March, for training in Helmitology
- Department of Administration and Planning in Health
Coordinator: Prof. Elsa Ramos Paim
Two Japanese, beginning in March, for a period of three months, for training in Service and Administration in Health at the Germano Sinval Faria Training Sanitary Unit
- Department of Sanitation and Environmental Health
Coordinator: Szachna Eliaz Cynamon

世銀借款のために作製された
Bio-Manguinhos についての説明書



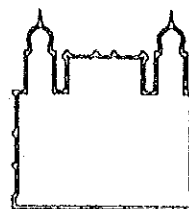
FIOCRUZ

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9933 FAX

BIO-MANGUINHOS

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9988 PABX

HISTÓRICO	Fl. 1 e 2
INTRODUÇÃO	Fl. 3
OBJETIVOS	Fl. 4
ESTRUTURA ORGANIZACIONAL	Fl. 5-6-7-8-9 e 10
ARMAZENAMENTO	Fl. 11
INSTRUMENTOS DE AÇÃO	Fl. 12 e 13
PRODUÇÃO	Fl. 14 e 15
DESENVOLVIMENTO TECNOLÓGICO	Fl. 16
PRINCIPAIS PROJETOS	Fl. 17 a 21
CONCLUSÃO	Fl. 22
ANEXO II	Fl. 23

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 -- Manguinhos
Ca. Postal, 925 -- CEP 20900
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9933 PBX

HISTÓRICO

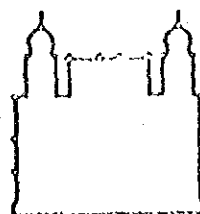
A Fundação Oswaldo Cruz originou-se do Instituto Soroterápico, fundado no Rio de Janeiro em 1900, mais tarde Instituto Oswaldo Cruz e a partir de 1970 transformada em Fundação, atuando, hoje, em três áreas distintas de trabalho: Pesquisa, Tecnologia e Ensino.

As atividades de Pesquisa concentram-se no INSTITUTO OSWALDO CRUZ (RJ), INSTITUTO FERNANDES FIGUEIRA (RJ), INSTITUTO DE PESQUISAS RENE RACHOU (MG), INSTITUTO DE PESQUISAS GONÇALO MONIZ (BA) e no INSTITUTO DE PESQUISAS AGEU MANGALHÃES (PE); as de Ensino na ESCOLA NACIONAL DE SAÚDE PÚBLICA e as de Tecnologia no Laboratório de Tecnologia em Produtos Biológicos de Manguinhos-BIO-MANGUINHOS e no Laboratório de Tecnologia em Quimioterápicos de Manguinhos - FAR-MANGUINHOS.

As atividades de desenvolvimento e produção de produtos biológicos que eram antes executadas nos Laboratórios do Instituto Oswaldo Cruz, passaram a ser desenvolvidas pelo Instituto de Produção de Medicamentos - IPROMED que, por sua vez, deu origem a FAR-MANGUINHOS e BIO-MANGUINHOS.

Essa área de produção que englobava, originariamente, tanto a de produtos farmacêuticos e defensivos quanto a de produção de biológicos, com técnicas e requisitos completamente diversos, foi desdobrada em duas, conforme suas finalidades.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 -- Manguinhos
Cx. Postal, 926 -- CEP 20500
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9963 PABX

Uma Unidade dedica-se exclusivamente ao desenvolvimento e produção de fármacos e defensivos, mediante manipulação de componentes e síntese químicas - FAR-MANGUINHOS. A outra, ao desenvolvimento e produção de biológicos e constitui hoje o Laboratório de Tecnologia em Produtos Biológicos de Manguinhos-BIO-MANGUINHOS, objeto do presente trabalho.

A criação de BIO-MANGUINHOS, em 1976, permitiu à FIOCRUZ uma coordenação mais abrangente de seus programas de desenvolvimento tecnológico, visando à elaboração de imunobiológicos básicos e reativos para diagnóstico de doenças, para uso da população brasileira.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Marquinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 233-9933 PABX

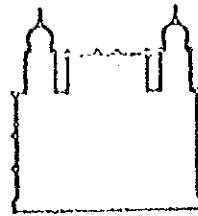
I N T R O D U Ç Ã O

BIO-MANGUINHOS é o órgão técnico da Fundação Oswaldo Cruz encarregado do Desenvolvimento Tecnológico e Produção de Produtos Biológicos para imunização e diagnóstico laboratorial, para a identificação de entidades nosológicas importantes em nosso meio.

Tem sob sua responsabilidade a produção das vacinas contra a Febre Amarela (maior do mundo), contra a Meningite Meningocócica (única no país), contra a Febre Tifóide, contra o Sarampo (pioneira no país) e contra a Cólera.

Na área de desenvolvimento tecnológico, vem dando ênfase ao preparo de reativos, ainda não fabricados no país, para diagnóstico da Hepatite "B" e da Doença de Chagas e soros padronizados para diagnóstico de Enterobacterioses, com início de produção previsto para o 1º trimestre do próximo ano. Vem desenvolvendo a metodologia de produção, por processo fermentativo, de vacinas contra a Cólera e contra a Febre Tifóide e o aprimoramento do componente "pertussis" da vacina Tríplice (DTP). Também estão em desenvolvimento reativos imunológicos como a Proteína "A", Antígenos para Diagnóstico da Brucelose Humana, da Leptospirose, da Listeriose, das Febres Tifóide e Para-Tifóide, da Toxoplasmose gondii, etc.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



-4-

FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 210.9338 PABX

O B J E T I V O S

BIO-MANGUINHOS, criado pela Norma Regulamentar nº 02/76, de 04/05/76 (item 3-VI), tem suas atribuições definidas no item IV do Art. 3º do Estatuto da Fundação Oswaldo Cruz, / (Dec. nº 77481, de 23/04/76), desenvolvendo suas atividades com o propósito de cumprir os seguintes objetivos:

- desenvolver tecnologia e metodologia de produção de vacinas e outros produtos biológicos;
- elaborar produtos biológicos para atender às necessidades dos programas de saúde e às exigências da Segurança Nacional;
- adaptar tecnologias transferidas;
- minimizar o fluxo de importação de produtos biológicos.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 5 -

FIOCRUZ

ESTRUTURA ORGANIZACIONAL

Av. Brasil, 4365 -- Manguinhos
Cx. Postal, 325 -- CEP 20900
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 252-9953 FAX

BIO-MANGUINHOS desenvolve seus trabalhos através dos seguintes setores técnico-científicos:

a) Unidade-Piloto de Vacinas Bacterianas por Processo Fermentativo

Trata-se de uma Unidade equipada com material moderno, destinada inicialmente à produção de vacina contra a Meningite Meningocócica, utilizando a técnica da fermentação no processo produtivo da massa microbiana.

Esta Unidade-Piloto permitiu a absorção de uma nova tecnologia, até então inédita no país, cobrindo toda a demanda estratégica da vacina anti-meningocócica do tipo A + C.

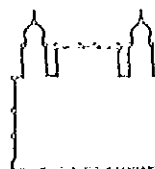
Com o fim de transformar esta Unidade-Piloto em uma Unidade-polivalente, desenvolve-se, atualmente, processos de produção, por fermentação, de outras vacinas bacterianas, bem como metodologias de produção da Proteína "A" para ensaios imunológicos.

b) Laboratório de Produção de Vacinas Estratégicas

Este Laboratório produz, pelos processos clássicos, Vacinas contra a Cólera e Febre Tifóide.

Visando alcançar o mercado externo de imunizantes, bem como assegurar o atendimento a possíveis demandas especiais em programas de imunização do Ministério da Saúde, desenvolvem-se metodologias de produção destas vacinas por processo fermentativo controlado, em profundidade.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 6 -

FIOCRUZ

Az. Brasil, 4365 -- Mangueiras
Cx. Postal, 526 -- CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 210.9933 PABX

c) Laboratório de Produção de Vacina contra a Febre Amarela

É o maior laboratório produtor deste tipo de vacina em todo o mundo.

Utilizando ovos SPF (Specific Pathogenic Free) como matéria-prima para a replicação do vírus, a produção atende não apenas à demanda nacional, mas também aos mercados da África e América Latina.

Ao lado da clássica apresentação em ampolas de 200 doses, o laboratório passou a produzir, também, ampolas com 50 doses da vacina, o que facilitará, sem dúvida, sua colocação no mercado internacional.

d) Laboratório de Apoio Tecnológico

Esta Unidade é de importância fundamental para os projetos de desenvolvimento tecnológico de BIO-MANGUEIRAS.

Compoê-se de três Laboratórios:

d.1) Laboratório Central de Envasamento e Liofilização

Este Laboratório, equipado com material moderno, além de dar apoio técnico a outros laboratórios, atualmente está engajado na produção da vacina contra o Sarampo, que se constitui um pioneirismo no país.

É um laboratório de suma importância para a consecução do produto final, já incorporado à linha de produção da maioria dos produtos elaborados em BIO-MANGUEIRAS.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 7 -
FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 - Manguinhos
Cx. Postal, 526 - CEP 20900
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 233-9533 PARX

d.2) Laboratório Central de Produção de Diluentes

Equipado modernamente, este laboratório produz água bidestilada apirogênica, dentro dos padrões mais exigentes de qualidade, prestando fundamental apoio aos demais laboratórios pela produção dos solventes destinados ao uso com produtos liofilizados.

d.3) Laboratório de Meios de Cultura

É um Laboratório destinado a produzir os meios de cultura, clássicos ou sofisticados, imprescindíveis à produção de vacinas bacterianas e reativos para diagnóstico de doenças, servindo, também, às demais unidades da FIOCRUZ.

Estuda-se forma de atendimento às Entidades de Saúde Pública, com Meios de Cultura padronizados, para fins laboratoriais. Para tanto, foi organizado um Memento de Meios de Cultura, que representa o início da implementação dessa idéia (Anexo II).

e) Laboratório de Reativos para Diagnóstico

e.1) Reativos para Diagnóstico de Enterobacterioses

É indiscutível a necessidade de prover os laboratórios de Saúde Pública de instrumentos eficazes e padronizados para o Diagnóstico das Bacterioses mais importantes em nosso meio.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 -- Manguinhos
Ca. Postal, 506 -- CEP 20900
Rio de Janeiro, Brasil
Tel. 250-5553 PAEX

Para a realização deste objetivo, desenvolvem-se metodologias de produção de reativos para diagnóstico laboratorial de Leptospirose, Brucelose, Listeriose e Enterobacterioses.

Há previsão para o próximo ano, de produção de reativos para Diagnóstico de Enterobacterioses, tais como: anti-soros de E.Coli, Shigella, Salmonella e Vibrião Colérico.

e.2) Reativos para Diagnóstico da Doença de Chagas

No 1º trimestre do próximo ano, pretende-se produzir reativos padronizados para Diagnóstico da Doença de Chagas, em forma de "Kits", dando aos Bancos de Sangue e a outros serviços correlatos, material para diagnóstico rápido e de resultados confiáveis. Esses reativos serão produzidos pela primeira vez no Brasil.

e.3) Reativos para Diagnóstico da Hepatite "B"

BIO-MANGUINHOS vem tomando as devidas providências para a produção desse reativo, já no 1º trimestre do próximo ano e para o qual não existe similar nacional.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 9 -
FIOCRUZ

Av. Brasil, 4355 — Manguinhos
Cx. Postal, 525 — CEP 20.000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9333 PABX

A Hepatite "B", transmitida principalmente pelo sangue e seus derivados, representa ainda, como a Doença de Chagas, um sério problema no país, devido à baixa sensibilidade das técnicas ora empregadas pela grande maioria dos Bancos de Sangue, para detectar o antígeno de superfície do vírus, em portadores assintomáticos.

Pela técnica da Hemaglutinação Passiva Reversa, pretende BIO-MANGUINHOS produzir um reativo nacional para a Saúde Pública, auxiliando no controle da Hepatite "B" em nosso meio.

f) Laboratórios de Controle Químico-Biológico

Os Laboratórios de Controle de BIO-MANGUINHOS, necessariamente, incorporam-se às linhas de produção. Visam estabelecer e exercer o controle sistemático das matérias-primas e produtos acabados elaborados pelos diversos Laboratórios de BIO-MANGUINHOS. Realizam ensaios biológicos para estudo da qualidade dos produtos biológicos, visando assegurar a inocuidade, potência, pureza e eficácia desses produtos, estabelecendo, ainda, especificações e requisitos mínimos para os mesmos. Realizam, também, pesquisas sobre sua estabilidade, degradação espontânea, efeitos colaterais, reações indesejáveis e presença de agentes contaminantes. Usando padrões previamente estabelecidos, acompanha todas as fases das linhas de produção, garan-

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 10 -
FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 526 — CEP 20 000
Rio de Janeiro — Brasil
Tel. 253-9553 PABX

tindo a qualidade dos produtos finais, de acôrdo com as normas internacionais.

Estes Laborat6rios est6o, ainda, em condi76es de testar embalagens, ra76es, medicamentos, inseticidas e alimentos, e reaproveitar 6lcool e 6ter et6licos.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 11 -

FIOCRUZ

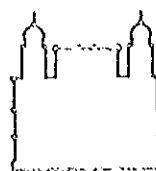
Av. Brasil, 4365 -- Marquinhos
Cx. Postal, 925 -- CEP 20900
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-7555 PABX

ARMAZENAMENTO

O armazenamento do produto acabado é feito em diversos congeladores a temperaturas que variam de -20°C a -75°C e em um conjunto frigorífico com três câmaras separadas e resfriadas a -45°C , -20°C e 4°C , em sequência.

A capacidade total de armazenamento é de 120m^3 a 4°C , 60m^3 a -20°C e 20m^3 a -45°C .

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 12 -
FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 525 — CEP 20500
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 250-9533 PABX

INSTRUMENTOS DE AÇÃO

Para a viabilização de seus objetivos, BIO-MANGUINHOS congrega em seus quadros de pessoal, funcionários pertinentes às áreas-meio e fim, nas seguintes quantidades:

Área-meio: 21 funcionários, sendo 5 de nível superior, 3 de nível universitário, 12 de nível médio e um de nível primário de instrução.

Área-fim: 86 funcionários, sendo 15 de nível superior, 6 de nível universitário, 15 de nível médio e 50 de nível primário de instrução.

O anexo II demonstra, por cargo/função, o pessoal envolvido nas atividades de BIO-MANGUINHOS.

Os Equipamentos distribuídos pelos laboratórios são os mais variados. Destacamos:

3 liofilizadores, 3 fermentadores, 2 incubadoras, 14 capelas de fluxo laminar, 3 cromatógrafos, 6 centrífugas comuns, 7 centrífugas refrigeradas, 5 ultra-centrífugas, 2 máquinas de envasar e fechar ampolas, 1 máquina de revisar ampolas, 1 máquina de envasar e fechar frascos, 26 congeladores comuns e sub-zero, 10 geladeiras domésticas, 20 estufas, 6 agitadores magnéticos, 2 re-

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 13 -
FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20 500
Rio de Janeiro — Brasil
Tel. 233-9588 PABX

resistivímetros, 3 espectrofotômetros, 10 colorímetros, 15 balanças analíticas, 2 máquinas fabricadoras de gelo, etc.

Os recursos financeiros procedem do Tesouro Nacional e são alocados na Unidade, pela FIOCRUZ.

A Unidade tem condições de captar recursos com a comercialização, a níveis nacional e internacional, de seus produtos, como já vem ocorrendo, embora o mecanismo vigente ainda não possa oferecer os resultados desejados.

BIO-MANGUINHOS vem atendendo às solicitações de Organismos Internacionais, como a OMS e OPAS.

O Instituto Oswaldo Cruz vem emprestando significativo apoio científico a BIO-MANGUINHOS, através da interação de seus laboratórios com o setor produtivo, tornando-se instrumento indispensável à consecução dos objetos institucionais.



Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 925 — CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 233-9933 PBX

P R O D U Ç Ã O

BIO-MANGUINHOS produz atualmente os itens abaixo especificados, apresentando a seguinte capacidade máxima de produção anual:

- Vacina contra o Sarampo.....	10.000.000	doses
- Vacina contra a Meningite.....	10.000.000	doses
- Vacina contra a Febre Amarela.....	10.000.000	doses
- Vacina contra a Febre Tifóide.....	1.000.000	ml
- Vacina contra a Cólera.....	350.000	ml
- Água Bidestilada Apirogênica.....	15.000.000	ml
- Meios de Cultura.....	2.000	litros
- Água Destilada.....	10.000	litros

Além dos itens acima, prepara-se a Unidade para produzir no próximo ano:

- Reativos para Diag.da Hepatite "B".....	24.000	Conjuntos
- Reativos para Diag.da Doença de Chagas...	12.000	Conjuntos
- Anti-soros OK de E.coli.....	4.800	ml
- Anti-soros de Shigella.....	2.400	ml
- Anti-soros de Salmonella	4.800	ml
- Anti-soros de Vibrião Colérico.....	2.400	ml

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 15 -

FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 - Manguinhos
Cx. Postal, 926 - CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 250-9535 PABX

Esta Unidade ainda presta apoio administrativo ao Projeto Hanseníase, embalando, estocando e expedindo os seguintes produtos:

- Reações de Montenegro;
- Mitsudina Integral;
- Fosfato de Histamina;
- Cloridrato de Pilocarpina.



Av. Brasil, 4365 — Mangueiras
Cx. Postal, 926 — CEP 20000
Rio de Janeiro — Brasil
Tel. 230-9533 PA&X

DESENVOLVIMENTO TECNOLÓGICO

BIO-MANGUINHOS desenvolve em seus laboratórios e em integração com os laboratórios do Instituto Oswaldo Cruz, os seguintes produtos:

- Vacina contra a Cólera, por processo fermentativo;
- Vacina contra a Febre Tifóide, por processo fermentativo;
- Proteína "A" para ensaios imunológicos;
- Reativos para Diagnóstico da Brucelose Humana;
- Reativos para Diagnóstico da Leptospirose;
- Reativos para Diagnóstico da Listeriose;
- Reativos para Diagnóstico das Febres Tifóide e Paratifóide;
- Reativos para Diagnóstico da Toxoplasmose gondi;
- Aprimoramento do componente "pertussis" da Vacina Tríplice (DTP).

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 17 -

FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 526 — CEP 20000
Rio de Janeiro — Brasil
Tel. 230-9333 PÁBX

PRINCIPAIS PROJETOS

IMPLANTAÇÃO DO LABORATÓRIO DE CULTURA DE TECIDOS

Objetivo: Implantação de um Centro de Cultura de Tecidos para a produção de massa viral para a sua utilização no preparo de vacinas - Sarampo e Poliomielite.

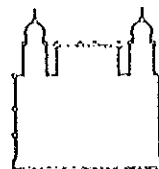
Justificativa: É necessário consolidar a produção da vacina contra o Sarampo e implantar a produção da vacina contra a Poliomielite no país. A tecnologia utilizada para a produção dessas vacinas permitirá o desenvolvimento de outras vacinas virais.

ANIMAIS DE LABORATÓRIOS

Objetivo: Implantação de biotério de referência: criação de animais geneticamente controlados e "germ-free" para:

- a) experimentação, principalmente visando ao controle de qualidade biológica e farmacológica e à pesquisa;
- b) fonte de insumos básicos (embrião de pinto, camundongos recém-nascidos e órgãos de animais);
- c) produção de soros normais, anti-soros e soros imunológicos (animais mais utilizados: coelhos, cavalos, macacos, caprinos, bovinos, ovinos).

Justificativa: A carência de instituições ligadas ao problema, impossibilita o desenvolvimento adequado das áreas que utilizam animais deste tipo como instrumento de trabalho.



Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 925 — CEP 22000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 250-9333 PAEX

DESENVOLVIMENTO DE REATIVOS PADRONIZADOS PARA DIAGNÓSTICO LABORATORIAL

Objetivo: Desenvolvimento de metodologias para diagnóstico laboratorial, padronizadas, para a identificação de entidades nosológicas importantes no nosso meio, tais como: doenças bacterianas, parasitárias e virais, além de doenças degenerativas e auto-imunes.

Justificativa:

- a) carência de produção de reagentes padronizados para diagnóstico, no país;
- b) dependência externa de muitos desses reagentes.

APRIMORAMENTO DA QUALIDADE DAS VACINAS BACTERIANAS

Objetivo: Melhoria de imunizantes, quanto à eficácia, inocuidade e conservação - Vacinas contra a difteria, tétano, coqueluche, meningite meningocócica, febre tifóide e desenvolvimento de outras vacinas.

Justificativa:

- a) a qualidade das vacinas ainda pode e deve ser aprimorada;
- b) outras áreas de vacinas bacterianas, tais como vacinas combinadas, adjuvantes, novas estirpes, etc, não tem merecido a devida consideração;
- c) não existe no país nenhum órgão realizando, sistematicamente, trabalhos relacionados com a epidemiologia, estado sanitário da população, identificação de estirpes bacterianas circulantes.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 19 -
FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Marquês
Cx. Postal, 925 — CEP 20600
Rio de Janeiro — Brasil
Tel. 250-9525 FAX

INFLUENZA

Objetivo: Estudo epidemiológico do vírus da Influenza, visando determinar:

- a) as estirpes de vírus circulantes e predominantes;
- b) sua importância nosológica e implicações econômicas;
- c) possibilidade de preparo de vacina eficaz, em caráter emergencial.

Justificativa: Em países de clima temperado, pela importância desta virose, a morbidade e a taxa de letalidade de estão perfeitamente estabelecidas. Além disso, pela possibilidade de ocorrer surto de Gripe por vírus novos, mutantes, esses países tem montado toda uma estrutura laboratorial capaz de identificar, responder e bloquear rapidamente uma eventual ameaça.

É necessário conhecer, também em nosso meio, a importância desta virose e suas implicações sócio-econômicas.

PRODUÇÃO DE INSUMOS BÁSICOS E MEIOS DE CULTURA PARA A PESQUISA, DESENVOLVIMENTO TECNOLÓGICO E PRODUÇÃO DE IMUNOBIOLÓGICOS.

Objetivo: Desenvolvimento e produção de componentes básicos, atualmente importados, tais como: amino-ácidos, vitaminas, proteoses, lactalbuminas, frações de soros, agar purificado etc. e meios de cultura bacteriológicos e virais.

Justificativa: Dependência externa total desses produtos.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



FIOCRUZ

- 20 -

Av. Brasil, 4365 -- Manguinhos
Cx. Postal, 925 -- CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230.9555 PABX

IMPLANTAÇÃO DE NÚCLEO DE DESENVOLVIMENTO DE EQUIPAMENTOS TÉCNICO-CIENTÍFICOS.

Objetivo: Integração de áreas tecnológicas do país, visando suprir as necessidades do país em determinados equipamentos de tecnologia mais sofisticada e a sua manutenção.

Justificativa:

- a) dificuldade de importação de equipamentos científicos;
- b) dependência externa de equipamentos científicos mais sofisticados;
- c) existência no país de áreas tecnológicas bem desenvolvidas (eletrônica, computadores, mecânica fina, etc.), no entanto dispersos;
- d) má "performance" de alguns equipamentos importados, face às condições ambientais diversas dos países de origem e a deficiência de manutenção técnica local (falta de peças de reposição e pessoal especializado).

PADRONIZAÇÃO E PRODUÇÃO DE PADRÕES BIOLÓGICOS

Objetivo: Identificação e determinação de componentes ativos de substâncias biológicas.

Justificativa: Produção de padrões biológicos para a determinação bioquímica, química, imunológica, etc.



Av. Brasil, 4365 — Mangueiras
Cx. Postal, 926 — CEP 20
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9535 FAX

TRANSFERÊNCIA DE TECNOLOGIA DE PRODUÇÃO DE IMUNIZANTES - SARAMPL
E POLIOMIELITE

Objetivo: Produção no país de imunobiológicos ainda importados, através de:

- a) intercâmbios e convênios com instituições nacionais e estrangeiras, visando treinamento de especialistas;
- b) obtenção de cepas de vírus-semente e outras matérias-primas essenciais;
- c) obtenção de "Know-how" de produção;
- d) colaboração no planejamento e execução de projetos específicos.

Justificativa: Estabelecimento de centros de desenvolvimento de tecnologia avançado em imunobiológicos, a curto prazo.

DESENVOLVIMENTO DE IMUNOBIOLÓGICOS RELACIONADOS AS PRINCIPAIS ZOONOSES

Objetivo: Desenvolvimento de metodologias de produção de imunobiológicos de zoonoses importantes para a Saúde Pública.

- Justificativa:
- a) a interrelação de conhecimentos das áreas médica e veterinária, de certas doenças transmissíveis;
 - b) grande importância sanitária e econômica.

Ministério da Saúde
Fundação Oswaldo Cruz



- 22 -

FIOCRUZ

Av. Brasil, 4365 — Manguinhos
Cx. Postal, 926 — CEP 20000
Rio de Janeiro - Brasil
Tel. 230-9988 PABX

CONCLUSÃO

BIO-MANGUINHOS e FAR MANGUINHOS se projetam no desenvolvimento sócio-econômico do país através da tecnologia de saúde.

Os resultados alcançados e a serem alcançados destinam-se diretamente às áreas de Saúde Pública.

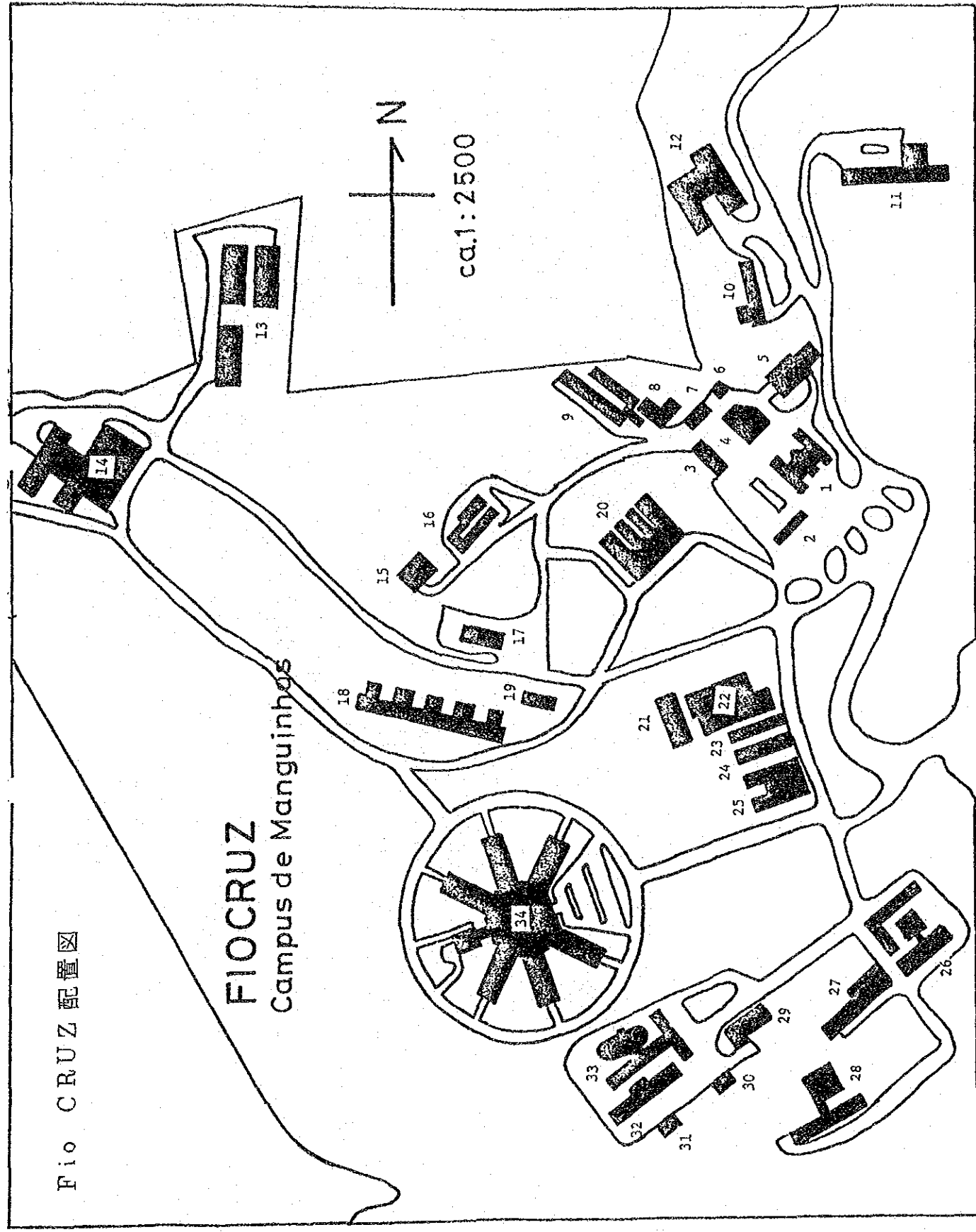
Assim sendo, o fortalecimento dos programas de produção e desenvolvimento tecnológico implicará, conseqüentemente, na melhoria de vida e bem-estar da população brasileira.

PESSOAL ENVOLVIDO NAS ATIVIDADES DE BIO-MANGUINHOS

ANEXO II

23

CARGO/FUNÇÃO	ÁREA			GRAU DE INSTRUÇÃO			S O M A
	MEIO	FIM	SUPERIOR	UNIVERSIT.	MÉDIO	PRIMÁRIO	
Tecnologista IV	01	02	03	-	-	-	03
Tecnologista II	-	01	01	-	-	-	01
Tecnologista I	-	07	07	-	-	-	07
Pesq. Assistente	-	02	02	-	-	-	02
Pesq. Associado	-	01	01	-	-	-	01
Analista Adm. I	01	-	01	-	-	-	01
Téc. Adm. I	01	-	01	-	-	-	01
Engenheiro I	01	-	01	-	-	-	01
Secretária Executiva	01	-	-	-	01	-	01
Assistente Adm.	03	-	01	02	-	-	03
Aux. Adm. II	03	-	-	01	02	-	03
Secretária	01	-	-	-	01	-	01
Mestre de Manutenção	01	-	-	-	-	01	01
Téc. Prod. Vacinas	-	27	02	05	04	16	27
Aux. Tec. Prod. Vacinas	-	21	-	01	17	03	21
Aux. Tec. Prod. Medicamentos	06	05	-	-	-	11	11
Aux. Tec. Pesquisa	-	02	-	-	-	02	02
Aux. Serv. Pesquisa	01	14	-	-	01	14	16
Operadorista Aux.	-	03	-	-	-	03	03
T O T A L	21	86	20	09	27	51	107



FUNDAÇÃO OSWALDO CRUZ (FIOCRUZ) "CAMPUS" DE MANGUINHOS

- | | |
|---|---|
| 1. Castelo (記念館, 管理棟) | 21. Laboratório de Malusocídeos (昆蟲微生物) |
| 2. Cantina (食堂) | 22. Garagem (ガレージ) |
| 3. Sala Marquês de Barbacena (博物館) | 23. Oficina de Carpintaria (木工室) |
| 4. Pavilhão Figueiredo Vasconcelos (管理棟) | 24. Oficina de Serralharia (金工室) |
| 5. Almoarifado (倉庫) | 25. Galpão (倉庫) |
| 6. Pavilhão Adolfo Lutz (研究棟) | 26. Pavilhão Rockefeller (五物架棚製造棟) |
| 7. Relógio | 27. Pavilhão Rocha Lima (") |
| 8. Pavilhão Gomez Faria (研究棟) | 28. Pavilhão Biologia (昆蟲微生物) |
| 9. Pavilhão Virus (") | 29. Lavanderia (洗滌乾燥室) |
| 10. Pavilhão Carlos Chagas (") | 30. Protozoologia (原生動物研究室) |
| 11. Pavilhão Arthur Neiva (") | 31. Biotério (動物舎) |
| 12. ASFOC | 32. Pavilhão Gaspar Viana (研究棟) |
| 13. Farmanghinos (医薬品製造棟) | 33. Hospital Evandro Chagas (研究病院) |
| 14. Escola Nacional de Saúde Pública (国立公衆衛生学校) | 34. LCCDMA |
| 15. Residência Oficial (總裁公邸) | |
| 16. Vila Residência (カストロ・アルカス・外務研究者宿舎) | |
| 17. Pavilhão Henrique Aragão (変態ワカサギ製造棟) | |
| 18. Biotério Central (中央動物舎) | |
| 19. Escritório de Manutenção (管線事務室)(機器維持番号 5555) | |
| 20. Biotério Velho (動物舎) | |

órgãos e entidades estrangeiras ou internacionais, terão a respectiva destinação, aplicação e alienação, efetivadas de acordo com a forma prevista nos respectivos atos.

Parágrafo único. Os recursos provenientes da alienação dos bens a que se refere este artigo, e dos referidos sob as alíneas "a" e "b" do artigo 3.º serão recolhidos ao Fundo Nacional de Saúde.

Art. 5.º A SUCAM manterá registro cadastral próprio de habilitação de firmas para realização de tomadas de preços e se, ocasionalmente, o julgar insuficiente, poderá recorrer aos demais órgãos do Ministério da Saúde.

Art. 6.º Cabe ao Ministro da Saúde decidir dos recursos interpostos do julgamento das licitações aprovadas pelo dirigente da SUCAM.

Art. 7.º Os serviços da SUCAM poderão ser executados por:

I — servidores do Ministério da Saúde;

II — servidores das entidades da Administração Indireta vinculadas ao Ministro da Saúde;

III — servidores de outros órgãos da Administração Federal, Estadual ou Municipal;

IV — pessoal temporário e de obras, contratados pelo regime da legislação trabalhista;

V — colaboradores eventuais, na forma da legislação pertinente.

Parágrafo único. Os itens IV e V se aplicarão apenas à contratação de pessoal de nível técnico-científico e demais pessoal temporário e de obras destinado à execução de trabalhos relacionados com operações de campo.

Art. 8.º A SUCAM terá Tesouraria própria, pagando pessoal e processando diretamente entre outros, a averbação de contratos, consignações diversas, extração de empenhos, movimento bancário e emissão de certidões.

Art. 9.º A SUCAM trabalhará em regime de projetos, descentralizando, sempre que possível, a execução dos serviços, podendo contratar com empresas especializadas ou técnicos, em conformidade com os princípios fundamentais da Reforma Administrativa preconizada no Decreto-lei n.º 200, de 25 de fevereiro de 1967.

Art. 10.º O Supervisor Setorial de Campanhas Nacionais de Erradicação de Endemias, a que se refere a alínea "b" do item II do artigo 2.º do Decreto n.º 64.061, de 1 de fevereiro de 1969, exercerá a direção das campanhas de erradicação e de controle de endemias, de acordo com as disposições contidas no presente Decreto.

Art. 11.º Este Decreto entrará em vigor na data de sua publicação, revogadas as disposições em contrário.

Brasília, 15 de maio de 1970; 149.º da Independência e 82.º da República.

EMÍLIO G. MÉDICI
Ruy Vieira da Cunha
João Paulo dos Reis Velloso

DECRETO N.º 66.624 — DE 22 DE
MAIO DE 1970.

Dispõe sobre a Fundação Ins-
tituto Oswaldo Cruz.

O Presidente da República, no uso da atribuição que lhe confere o ar-

tigo 81, item III, da Constituição, decreta:

Art. 1.º Fica transformada a Fundação de Recursos Humanos para a Saúde em Fundação Instituto Oswaldo Cruz, e a ela incorporados o Instituto Oswaldo Cruz e o Serviço de Produtos Profiláticos do Departamento Nacional de Endemias Rurais, do Ministério da Saúde.

Art. 2.º A Fundação Instituto Oswaldo Cruz entidade dotada de personalidade jurídica de direito privado, sujeita ao regime administrativo e financeiro estabelecido em seu Estatuto tem por finalidade realizar pesquisas científicas no campo da medicina experimental, da biologia e da patologia; promover a formação e o aperfeiçoamento de pesquisadores em ciências biomédicas, de sanitaristas e demais profissionais de saúde; elaborar e fabricar produtos biológicos, profiláticos e medicamentos necessários às atividades do Ministério da Saúde, às necessidades do País, e às exigências da Segurança Nacional.

§ 1.º Passam a integrar a Fundação Instituto Oswaldo Cruz, o Instituto Fernandes Figueira do Departamento Nacional da Criança, o Instituto Nacional de Endemias Rurais, do Departamento Nacional de Endemias Rurais, o Instituto Evandro Chagas, da Fundação Serviços de Saúde Pública e o Instituto de Leprologia do Serviço Nacional de Lepra.

§ 2.º Os Institutos a que se refere o § 1.º terão autonomia, na forma estabelecida no Estatuto.

§ 3.º Revogado. ⁴⁴

⁴⁴ Revogado pelo Decreto n.º 74.891, de 13-11-74.

Art. 3.º Até que a lei venha a dispor a respeito, os bens imóveis, móveis e semoventes, integrantes do patrimônio da União e ora à disposição dos mencionados Instituto Oswaldo Cruz e Serviço de Produtos Profiláticos, serão utilizados pela Fundação, à qual caberá a sua guarda, conservação e administração.

Art. 4.º Fica o Ministério da Saúde autorizado a firmar convênios com a Fundação Instituto Oswaldo Cruz para a execução dos programas de Coordenação e Execução de Estudos e Pesquisas e de Produção de Medicamentos, correndo as despesas à conta das dotações próprias consignadas no orçamento da União.

Art. 5.º Este Decreto entrará em vigor na data de sua publicação, revogadas as disposições em contrário.

Brasília, 22 de maio de 1970; 149.º da Independência e 82.º da República.

EMÍLIO G. MÉNICI
Ruy Vieira da Cunha
Marcos Pereira Vianna

DECRETO N.º 66.689 – DE 11 DE JUNHO DE 1970

Regulamenta o Decreto-lei n.º 941, de 13 de outubro de 1960, que define a situação jurídica de estrangeiro no Brasil, e dá outras providências.

O Presidente da República, usando da atribuição que lhe confere o artigo 81, item III, da Constituição, decreta:

submetidas à consideração dos órgãos competentes do Ministério da Saúde, observando a mesma sistemática do Orçamento Geral da União e a competência do Órgão Central do Sistema de Planejamento Federal.

Art. 7.º A SUCAM poderá indenizar as despesas de transporte, alimentação e hospedagem de pessoas que, não pertencendo a seu quadro de pessoal, eventualmente sejam necessária na formulação e desenvolvimento de programas de saúde pública sob a responsabilidade do órgão.

Art. 8.º A organização, a competência e o funcionamento das unidades da SUCAM, bem como as atribuições do pessoal, serão fixados em Regulamento Interno, a ser aprovado pelo Ministro da Saúde, nos termos da legislação em vigor.

Art. 9.º Este Decreto entrará em vigor na data de sua publicação, revogadas as disposições em contrário.

Brasília, 6 de abril de 1976; 155.º da Independência e 88.º da República.

ERNESTO GEISEL
Paulo de Almeida Machado
João Paulo dos Reis Velloso

DECRETO N.º 77.481 — DE 23 DE
ABRIL DE 1976

Aprova o Estatuto da Fundação
Oswaldo Cruz e dá outras
providências.

O Presidente da República, no uso das atribuições que lhe confere o artigo 81, item III, da Constituição, decreta:

Art. 1.º A Fundação Oswaldo Cruz (FIOCRUZ), criada pelo De-

creto n.º 66.624, de 22 de maio de 1970, com a denominação dada pelo artigo 18 do Decreto n.º 74.891, de 13 de novembro de 1974, vinculada ao Ministério da Saúde, reger-se-á pelo Estatuto que acompanha este Decreto, assinado pelo Ministro de Estado da Saúde.

Art. 2.º A FIOCRUZ integra o Sistema Nacional de Desenvolvimento Científico e Tecnológico no campo da pesquisa e da tecnologia para a Saúde.

Art. 3.º É instituído o Plano Básico de Pesquisa para a Saúde, a ser formulado pelo Ministério da Saúde em consonância com a Política Nacional de Desenvolvimento Científico e Tecnológico.

Art. 4.º Os bens imóveis que se encontram, nos termos do artigo 3.º do Decreto n.º 66.624, de 22 de maio de 1970, e do artigo 3.º do Decreto n.º 67.049, de 13 de agosto de 1970, à disposição da FIOCRUZ, ficarão incorporados à seu patrimônio, em consonância com a autorização contida no artigo 3.º, § 5.º, I, do Decreto-lei n.º 904, de 1.º de outubro de 1969, mediante a transcrição, no Registro de Imóveis, e de relação, onde será descrito e avaliado cada imóvel, aprovada pelo Serviço do Patrimônio da União.

Art. 5.º Este Decreto entrará em vigor na data de sua publicação, revogadas as disposições em contrário.

Brasília, 23 de abril de 1976; 155.º da Independência e 88.º da República.

ERNESTO GEISEL
Paulo de Almeida Machado